

京古本や往来

印刷技術史における疑問

黒 崎 彰

印刷や出版の事業が一国の文化にかかわる重大な条件であるのは、あらためて述べるまでもない。わが国でも、中国から文字をはじめとした文房四宝の数々が移入されるに及んで、すでに奈良時代天平期にはこの種の事業が開始されている。今日にも伝わるその頃の遺品「百万塔陀羅尼」は、出版年の確かな世界最古の印刷物としてあまりにも有名な存在である。

このような印刷史初期における仏教開板事業はさておいても、印刷、出版技術が人間のいとなみすべての事業にわたり、記録と保存の機能を発揮し、今日に至っているのは疑う余地がない。過去の足跡をたどり、みづからを啓蒙するプロセスにあって、現代に生きる私たちはこの媒体が備えるすぐれた役割に、多くの恩恵を受けているのである。

印刷と出版を通して、私たちは遠い昔の貴重な情報と出合うことができる。今日の知識や技術も、そのほとんどが印刷物、文献による資料を積み重ね、その上に成立しているといっても過言ではない。ただ、印刷がすべての分野に平等に貢献してきたかといえ、そうでないのも事実である。もちろんその裏には、各時代における意味や価値感の変動によって、消失したり破壊された印刷物も天文学的な数量にのぼるであろう。そのために、文献、資料の豊かな領域もあれば、乏しいところも存在するのは否定できない。

たとえば、最も身近な例として、印刷に関する資料を検討するならば、他にくらべて案外その量が少なく、完備もしていないのに驚かされる。ほとんどの文献と記録が、印刷媒体を経て存在するにもかかわらずである。印刷されたものすべてが印刷分野の資料であり、技術の記録であるという考え方も一方にはある。しかし近代以降の機械印刷時代を除いて、印刷技術自体の記録が印刷そのものによって語られ、伝えられていないのはまことに不思議に思われる。印刷は、それ以外の分野の記録には持てる力をそいできたが、一方自身の姿を記録に留めることを恥じらい、故意にそれを避けてきたのだろうか。又それならば、どんな理由からだったのだろうか。

季 刊
第 32 号
京 都 古 書 研 究 会
発 行
〒604 京都市中京区ル
東洞院六角上ル
京都府古書籍商業協同組合内
振替 京都 0-22132
年間購読料 500円(送料込)
頒 価 150円

諸専門分野にまたがっており、極めて統合性に乏しい難点をかえている。加えて、学問体系の中では文献研究が中心をなし、実学的要素の強い印刷技術史の解明は、いまだ着手されていないのが現状であろう。

たとえば、ある高名な学者の著わす古印刷文化史の一節に、印刷技術について「日本製品図説・錦絵」がまるまる転載されているのを見たことがある。又、日本の摺刷具「バレン」が、錦絵以前の時代についてもやはり刷具として紹介させられているのである。以上はんの一例であるが、文献研究と実学的姿勢相互に見られる、狭量と混乱を如実に示しているようにも考えられる。

さて話はあるが、私と古書店とのつき合いは随分と長く、深い。大学で専攻する分野からおよそかけはなれた錦絵や木版の勉強に、私を駆りたてたのは事実古書店の店先に並ぶ浮世絵、絵草紙のたぐいであつた。後にそこから進んで古印刷技術にひかれ、関係書籍を漁りはじめたのも古書店が発端である。時代や専門領域を超え、様々なクロスオーバーする資料を満載した古書店は、研究室の単調さとは比較にならないほどドラマに満ちている。今後とも良き資料をご教示願いたいものである。

京都工芸繊維大学教授
意匠工芸学科

——古書のご整理は—— 京都古書研究会加盟店へ ——

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|
| 赤尾 照文堂
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 石川 本
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 井上 古
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 其 中
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 京 密
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 三 密
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | シルヴァン
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 大 善
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 竹 網
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 谷 方
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 東 山
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 外 山
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 萩 山
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 福 田
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 藤 井
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 文 庫
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 文 庫
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 八 木
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 山 崎
京都府京都市中京区
電話 二一五八 | 臨川 書店
京都府京都市中京区
電話 二一五八 |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|

辻潤について

大 月 健

『虚無思想研究』編集委員会

(一)

二月から三月にかけて、大阪、京都、東京の三ヶ所ですべて「個」に生きたる——辻潤展」を催している。日程は、二月十日から二十二日が大阪の東宝画廊、二月二十八日から三月十九日が京都のアスタルテ書房、三月二十五日から三十一日が東京のギャラリーえとふ、となっている。それぞれの会場が主催者となり、私たち「虚無思想研究」編集委員会は資料の収集などで協力するといったかたちをとっている。本誌が出る頃にはすべて終わっており、それなりの結果が出ているのではないかと思われる。

辻潤展は余りおこなわれていない。年譜を見ると昭和二十三年十一月二十七日から三日間、宮城県気仙沼図書館で気仙沼自由芸術協会主催の「辻潤黙々羅先生遺墨展覧会」が催されていることになっているが、それ以外には見あたらない。「個」に生きる——辻潤展」が二度目になるのかもしれない。

今回の催しは、神戸市在住の山本正一氏所蔵の十三点を中心に、書画十六点で行っている。東京会

場には、これに加えて故山内画乱洞氏が所蔵していた書画、色紙など約十点が特別に展示できていることになっている。また、展示品で珍らしいものでは辻潤遺愛の尺八（福城可童作）と、著作集「どうすればいいのか？」に収録されている『作品』の肉筆原稿などがある。

書簡、初出誌、単行本、関連資料などを考えると一五〇点以上の出品点数になるのではないかとと思われる。資料提供者は二十名近くになっている。本誌をかりてお礼をいいたい。

この原稿を書いているのは、京都のアスタルテ書房で「個」に生きる——辻潤展」を催しているさなかである。まだ、この後東京会場が残っており、いまここで「個」に生きる——辻潤展」の全体的な総括をすることは出来ない。ただ、大阪会場と京都会場を見ていて、新聞各紙がとりあげてくれたこと

もあって予想以上の人々が足を運んでくれている。この結果は雑誌『虚無思想研究』で報告したいと思っている。

辻潤は知られているようで、余りよくは知られていない。多くの

場合、大正アナキズムの巨魁大杉栄と「炎の女」伊藤野枝のかねあいの中で、女房に逃げられたうだつのあがらない男として紹介されているからである。事実、辻潤には彼等のはなやかさも無いし、劇的な死ももっていない。辻潤の死は悲惨な餓死である。しかし、彼はダダイストとして、自己享楽者として充分な生を生きている。萩原朔太郎は「辻潤と低人教」の中で、辻潤は文章で表現された文学でなく、彼自身がひとつの「作品」である、と云っている。ここで、その辻潤の思想を紹介しておきたい。



「個」に生きる——辻潤展

(二)

辻潤は明治十七年（一八八四年）に東京浅草で生れ、昭和十九年（一九四四年）に戦時下の東京でなくなっている。六十才である。その間に残した著作は『浮浪漫語』（大正十一年）、「ですべら」（大正十三年）、「どうすればいいのか？」（昭和四年）、「螺旋道」（昭和四年）、

『絶望の書』（昭和五年）、「痴人の独語」（昭和十年）、「子才以前」（昭和十一年）の七冊であり、「天才論」などの翻訳を含めても全部で十三冊である。けっして多いとは云えない。それもまた、もつともなのである。彼の場合、出自が悪い、そのうえ一管の尺八を懐にして放浪の旅を繰り返しており、また晩年はほとんどものを書きしていないからである。

辻潤のことを語ろうとすれば、まずマックス・ステイルナーの「唯一者とその所有」に触れなければならぬ。彼はそれを全訳して「自我経」というタイトルで大正十年に冬夏社から刊行している。この本との出会いがなければ、彼の人生観はかわっていったかもしれない。それだけ、重要な位置を占めている本である。辻潤は「自分だけの世界」のなかで、「僕はスチルネルを読んで初めて自分の態度がきまったのだ。ボーズが出来たわけだ。そこで初めて眼が覚めたような気分になったのだ。今迄どうにもならないことに余計な頭を悩ましてきたことの愚かなことに気がついたわけだ。自分の読んだ書物の中で恐らくこの位自分を動かした本は一つもない」と云っている。この本と出会ったのが、辻潤にとってよかったのかどうかはよく分からない。それは、彼の最後が餓死であつたということがすべてを物語っている。ただ、彼が生きた

かて迷っていたことを「唯一者とその所有」はきいてさっぱりと払拭してくれたのである。その時から辻潤は「唯一者」の自覚をもって生きることになる。彼は生涯、ステイルネルリアンであることを放棄していない。

マックス・ステイルナーの「唯一者とその所有」は一八四四年にドイツで刊行されている。当時のドイツの思想状況は、一八三一年にヘーゲルが逝つて、彼の哲学を批判的に継承しようと試みるヘーゲル左派が台頭してきている。マックス・ステイルナーもその一人である。「唯一者とその所有」は刊行されるとすぐにドイツ思想界に一大センセーションをまきおこしている。その内容が余りにも特異だったからである。彼は上位観念（国家、社会、宗教、人間等）はすべて実体のない幽霊的存在であると一切を否定し、「個」をより所として自我主義の体系を築きあげるのである。「個」は「唯一者」として措定される。マックス・ステイルナーは「唯一者」の意義として「自分は他の人々と同一の自我ではない。だが、唯一の自我である。自分は無二である。故に自分の欲求も亦無二である。そして、自分の行為も、要するに、自分の一切が無二である。そして、この無二な自分としてのみ、自分は一切を自分のものとするのである。又同時に、自分はかくの如き者と

してのみ自分を働かせ、自分自身を發展させる。自分は人間を發展させもしなければ、人間として發展もしない。けれど、自分として自分は——自分自身を發展させる」と云っている。当時はヘーゲルの国家論、マルクスの社会主義、フオイエルバッハの人間主義などが論争を繰り返している中で、彼はそれらの思想一切を「唯一者」の立場から批判し、徹底した個人主義を主張する。個人主義の無政府主義の始祖といわれるのもこのためである。その「唯一者とその所有」も三年後のドイツ革命と共に忘れ去られていく。再度陽の目を見ることになったのは五十年後である。ジョン・ヘンリー・マツケイが労作「マックス・スティルナー——その生涯と仕事——」を發表することによって注目されることになった。

自分は自分である。という「唯一者」の思想が青年の辻潤をとらえたのである。「自己以外は一切（自己の肉體すら）はただ自己を享樂するために存在する道具であり手段であるに過ぎない。同時に自己はまた他の存在の享樂に対する一つの道具であり手段であることを忘れてはならない」という「唯一者」の理解のもとに辻潤は生きていくのである。

(三)

『自我経（唯一者とその所有）』を刊行した大正十年から、慢性酒精中毒から精神に異状をきたし精神病院に入院した昭和七年までの約十二年間である。単行本に収録されている文章のほとんどがこの時期に書かれたものである。その中にはとりわけダダの文章が多い。ダダイスト辻潤と云われる由縁である。西欧のダダイズムをわが国でもっとも理解したのは彼である。ダダの主張は「反文学・反芸術」で、その表現の根底には「無意味」をすすめる。過去の一切を否定し、未来を放棄するダダにとって、現在のみが重要なのである。その現在という瞬間にダダは全精力を投入する。彼等の喧噪と奇矯な行動はそこから生じている。辻潤はダダを思想の方からとらえて「スチルネルの哲学を芸術に転換すると、そのままダダ芸術が出来あがる」と云って、ダダを精力的に紹介している。自分が歴史であるといいはなつ「唯一者」と、現在のみに価値を認めるダダの刹那主義とは思想としては酷似している。日本のダダは辻潤を中心にして動いているといっても過言ではない。高橋新吉の詩集「ダダイスト新吉の詩」を編集し出版の労をとったのも辻潤であり、吉行エイスケ、清沢清などダダイストを標榜していた青年の指標となつたのも彼である。「思想を生活（行為）に転換する時」のみ、その人は思想の所有者である」と云う辻潤の放浪も、身を挺したひとつのダダ的表現の実践だったのかも知れない。

(四)

辻潤の著作は「浮浪漫語」とか『絶望の書』とかタイトルもかわつていくが、その内容もまたかわつていく。ほとんどが身辺雑記的なものか、アフォリズム風の断章である。それがいま見ても色褪せていないから不思議である。

一つの整理、無精者が偶々気紛れに部屋の掃除をしてみる。一切の整理の結末は自殺、それでいい加減にして、また凡ゆる塵埃の中に没入する。それが日々の生活。

現在は過去の集積に相違ないが、それだからといって歴史を尊敬する義務も必要もない。

「虚無思想」と云ふのは「なんでもない」思想と云ふことだ。なんでもない思想を研究することはなんでもないことなのだ。

辻潤の思考は柔軟である。彼の周辺には多くの主義者がいる。にもかかわらず彼が主義者にならなかったのは、確固とした「唯一者」の思想をもつていたと同時に、この思考の柔軟性を保持していたからである。彼は自己享樂者として独自の生き方を模索していく。

る。それは昭和七年からはじまっている。その主なものを年譜から拾いあげて見ればその徹底ぶりが分るはずである。

昭和七年 夏、伊勢の津で暮し、八月に能登を放浪。また、虚無僧姿となつて尺八の門付をする。

昭和八年 七月、名古屋を放浪中に警察に保護され東山寮精神病院に収容される。

昭和九年 四月、宮城県石巻の松巖寺に招かれて静養、菅野青顔をたよつて気仙沼に赴く。八月、藤枝、湯河原、小田原を流寓する。

昭和十一年 六月、津の今井俊三方に寄寓。そこから比叡山に登り無想庵をたずねる。その後、京都において伊藤健造方に約八ヶ月寄寓する。



晩年の辻潤

（昭和十八年春、下鴨高木町にて）

昭和十二年 二月、鳥取の極楽寺に約二ヶ月滞在。その後、

神戸、岡山、広島を流寓。六月、京都で放浪中に警察に保護され岩倉病院に強制収容される。

昭和十四年 この年も一所不在の放浪の旅が続く。二月、静岡地方を流寓、東光寺の卜部鉄心をたずね、その後、京都、大阪、鳥取、岡山、広島を流寓する。

昭和十五年 八月、京都を流寓。その後、津の今井俊三方に寄寓。

昭和十六年 七月、大阪を転々とする。八月、津の今井俊三方に寄寓。十二月、気仙沼に行き菅野青顔方に寄寓する。

昭和十七年 七月、京都、大阪を経て奈良の芳徳寺に滞在。昭和十八年 十月、小田原の山内我乱洞方に寄寓。十一月、奈良の芳徳寺に赴き、広島、京都を流寓する。

昭和十九年 三月、石巻の松巖寺に滞在。七月、放浪の旅に終止符をうつて東京に戻り上落合の静怡寮というアパートに住む。

そして辻潤はこの昭和十九年十一月二十四日に餓死するのである。この一所不在の放浪の旅は面白い逸話を残している。非凡闊の人名辞典が、彼を昭和八年に死亡と記しているのを、旅先で彼が見て辻潤は死んだが、まだ水島流吉（彼のペンネーム）は生きている」と

云ったのである。この言葉は、もしかしたら真実を語っているのかもしれない。辻潤と云う名声を博した名前は過去のものであり、市井の一人の老人水島流吉として巷間を漂泊していたのかもしれない。

ABAJ公開講演会

「本のむし害対策と修理

—和装本と洋装本— 拝聴記 (下)

虫害について国鉄技術研究所の山野勝次氏の講演のあと、宮内庁の書院部で文書の修理、製本に長年にわたって携わっておられる古

関豊氏による和本、唐本の虫損個所修理や裏打ちの要領等の指導を受けた。こうした講習は一日、或いは数日の研修が必要などころを僅か一時間の演習ではとても多くをお教え願うのは無理であった。それでも二十八年間、和本修理を担当されている同じ書院部の吉野助手の手際のよいあざやかな補修の実演によっていくらかは会得することが出来た。まず第一に教わった和本の綴じ直しについては、筆者が受け売りするよりも、当誌「京古本や往来」第二号(昭和五十二年十月刊)の「本の修理講座」で藤井文政堂氏が説明しているの下記に再録させていただく。

「浮遊不知所求。猖狂不知所往」と云う言葉を好んだ彼は、一所不在の放浪の旅をつづけ、自己享楽者として自己を費消していき燃え尽きたのである。

例えば裏打ちの台紙には柿渋を塗った染紙を使用されているし、虫損の修理には刃のついてない小刀などを創作されている。

虫損の修理には、補修する虫穴より少し大きな和紙を切ってその部分に象嵌するが、この埋めこむ和紙を切るときに刃のついてない小刀を用いる。穴と補修紙の連結を和紙の特性である繊維質を十分に生すわけで、そのためにはナイフやハサミで切った鋭い断面は不適当なのである。刃のない小刀が無い時はナイフよりむしろ手で補修紙を破ってあてる方がよい。そしてなによりも注意することは穴埋のために部分的な盛り上がりや極力おさえることである。そして綴じ本の場合、四隅に必ず同じ紙を補足しておくこと。そうしないと綴じ直した折に角立たず、不細工な仕上りになる。補修紙の選定もその色調の調和を大切に、

本の修理講座

—綴の直し方—

綴糸の長さは、本書の縦(天地の長さ)の約三倍(本の厚さにより多少異なりますが)これを覚えて置きますと、糸に無駄が無く便利です(節用集など厚冊のものはもう少し長く必要)。

本書は裏表紙を上部に向けて綴ります。綴の順序は図の如く、①本書の厚さの上部から下程の部分を割り二三枚紙をすくう様にして右中穴(□)に通す(直接右中穴(□)に通すと、糸がぬける事が有ります)。

- ②上部に出た糸を一回転して下部から上部に通す。
- ③次いで左中穴(△)上部より下部に通し一回転して、さらに上部より下部に通す。
- ④左隅穴(△)下部より上部へ。
- ⑤さらに左隅、本書天部を一回転し、左隅穴(△)から左中穴(△)へ戻し、上部より下部に通す。
- ⑦左中穴(△)より右中穴(□)に戻し下部より上部に通す。
- ⑧右隅穴(△)上部より下部に通す。
- ⑨⑩左隅穴を綴たと同様の方法で綴る。
- ⑪右隅穴(△)より元の右中穴(□)に戻し下部より上部に通す。
- ⑫⑬綴針を綴た糸に掛けて元の右中穴(□)より、本書厚さの半程に通し余り糸を切る。以上の要領で綴りますが、ここで注意すべき点として

一、糸をはこぶ順序を間違えない事。間違えると綴落しや二重綴をする。

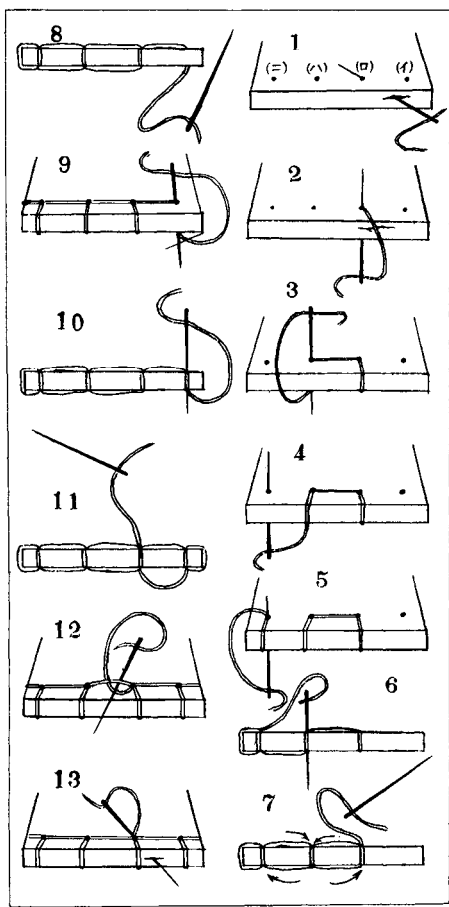
二、本書は表紙、本紙共、きちんと揃え、本紙に折れやゆがみが無いかを調べる。

三、綴針は上下にまっすぐ通す。

四、綴糸でしめるのは無く、本書を指でしっかり押え、それに糸を添す様に綴る。綴糸を絶対に強くしめつける事は禁物です。

五、綴糸は元糸によく似たものが良いが、無い場合は表紙の色に合ったものを選びます。(念の為元糸を少し保存して置いた方がよい)尚、綴糸に付いてですが、元糸に合った古いものが理想ですが、最

(本稿は本誌第二号(昭和五十三年十月)、第三号(同五十四年一月)の記事より抄録)



出来るだけ薄い和紙を使用することが肝要である。とくに紙背文書のある時は、極く薄い楮紙を使用する。(裏打ちの仕方については本誌第三号「昭和五十四年一月刊」『本の修理講座②』を参照下さい) 裏打ちの講習は見てのとおり簡単なのであるが、接着の和ノリひとつをとってもその日の天候により濃度を微妙に加減せねばならぬという事であり、その技術修得には永年の訓練、経験が必要である。一寸拝見した程度でここにその要領を述べるわけにはいかないが、ユニークだったのは裏打ちの台紙。半紙より大きな厚紙に特製の柿渋が塗られている。白い台紙より渋色の方が虫損個所がはっきり分かるのも一長であり、またなによりも丈夫でかつ手軽である。また裏打ちをした後は、ちようど植物採集での標本乾燥のように吸取り紙のように移し変え、それを重ねてゆく方法を撰んでおられたが、これもスペース等の解消に良い方法であった。裏打ちの材料としては雁皮紙よりも楮紙の薄紙が適当であるとのことである。

会場には近年、古関氏が故宮博物院を訪ねられ、通常は非公開である補修室等を特別に見学されたがその時のアルバムや、現在書陵部に所蔵しておられる和本のすべての形態を復元されたものも展示され、和装本装幀のパラエティの豊さに感心した。

ところで宮内庁書陵部ではこのような補修、保存を現在八人のスタッフで行っておられるが、収蔵の三十八万点すべてを補修するには今後まだ二百年は要するとのお話しであった。

終りに演壇に立たれたのは国会図書館で主に洋古書の革背本の修理、製本を手懸けておられる金子富保氏。氏は先年五月間大英図書館に研修に行かれたが、主はその時の模様をスライドを混えてお話し頂いた。

従前、製本は職人の縁の下の方の持ち的存在であったが、三年前の所謂酸性紙問題を契機として、資料保存の関心が多く持たれ、いきおい脚光を浴びるようになったのは、従事する当事者達にとつては大変な面はあるが、又喜ばしい事であると話され、それ以後図書館関係者等で度々研究会を持つておられるとの事。現在国会図書館では十三人の方が所蔵本の修理にあつておられるが、革製本三人、和製本三人、一般本七人という構成。現在の膨大な図書館の蔵書を製本修理するには宮内庁と同様その体制はとて不十分の限りである。ちなみに国会図書館の年間保修本は約五五〇〇〇冊であり、その八〇%は外注との事である。

製本には諸家(もろや)と呼ばれる手造り本と数物(かずもの)と呼ばれる多量製本があるが、一冊の仕上げに約三〜四ヶ月を要す

近なかなか手に入れにくく一般的には絹糸16号やレース糸が容易に入手できます。特に絹糸は色数も多く、やわらかで縫も余り強くないので適しています。

虫喰の直し方

部分直しを行うに当って大切な事は、補修用紙の選択と入手です。もちろん本紙に合った、和紙を選ぶのですが、紙質を考えねば成りません。大体、古いものは、キズ

キ紙が大半で明治頃には、ワラ紙もあり、中には、鳥ノ子紙や雁皮紙奉書、その他特殊な料紙もありますので、注意して下さい。

用紙の入手方法ですが、現在市販されて居る、紙店の和紙は、古色が無く、紙質や色合がよく似ていても、修理後、目立つ事がありますので、なるべく古紙を使用すべきです。古紙の入手は、古書店で和本の端本やヤブレ本、を手に入れる事です。余白や見込を利用出来ます。古い代帖や反古紙も重要です。又表具裏紙も好材料です。

古道具屋や書画店で、汚れたひどい軸やヤブレものなど数百円程度であります。

江戸期の表具裏なら大抵キズキ

手造り本は、現在の体制下ではある程度の機械化も止むを得ないところである。しかしながら古野武雄氏の言う「製本とは紙を順序正しく揃え、一方を閉じて表紙をつ

紙を使用していますので、一本あればかなりの古色の白紙が取れるでしょう。表で表具のキレや紙も表紙やその他の修理に役立ちます。表具のはずし方は、全部に軽く霧吹をかけてしめりを与え、少し置きますとよく剥れます。

次に用紙の厚さですが本紙より厚く成らない程度が良く、色目は本紙より古色のものが要です。

色の浅いものや本紙と同色の料紙は、修理後、新しく見える様です。糊は、生麩糊が良いと云われていますが、事務用、洗濯用の市販の糊で充分です。接着剤や化学糊は好ましくありません。

さて部分直しの方法には、色々の方法がある様ですが、本紙に直接糊を付ける方法と補修用紙に糊を付ける方法があり、糊の濃度や必要用具も異なります。

比較的に簡単に速くかつ本紙をいためる危険も少ない方法を紹介しましょう。

まず綴糸をはずし、袋を開き、本紙の皺をきちつとのばし虫穴の部分も美しくのばして置きます。

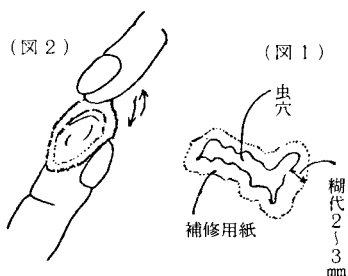
準備が出来ましたら、修理用紙を虫穴に合せ(虫穴を完全に覆う、大きさ、糊代を二ミリ程とる)

指でちぎり切りします(図1)。料紙

をハサミで切るのはよくない方法です。なぜならば指でちぎりますと、和紙の繊維がケバ立ってその繊維が本紙とよく馴染み、出来上りが大変ソフトで、一旦貼つくと剥れる事ありません。ちぎった用紙を指先に乗せ、糊代に糊を付けます。(図2)。糊は普通の堅さで、糊代とちぎり口のケバ立った繊維の部分に極少量の糊をぬると云うのでなく、軽く軽く叩く感じで置いて行きます。糊が多いとその部分が堅くごわごわに成り、糊をぬりこむと料紙がのび乾くと引きつれます。糊が完全に付けば、虫穴を覆い、貼付けます。そしてコテかアイロンで熱を加えて一氣に糊を乾してしまします。

熱を加える時は必ず、あて紙の上から行い、本紙に直接あてる事は禁物です。

(藤井文政堂、藤井敦)



(次ページにつづく)

望ましいことだと力説された。

氏が研修に向われた大英図書館では、従来より資料保存に熱心かつ深刻に取り組んでいて、所蔵本を単に製本、保修すればよいというのではなく、収蔵品全てが宝物という認識のもとに仕事がなされている。従ってその修理にあたる人達は二十余年の経験を持つ技術家集団であり、図書館に隣接する施設には約二百人の技術者が、各分野に分業された役割に携わっている。氏が訪ねられた当初は、決して書物に触らせてもらえず、見学しているばかりであったとか。彼らの作業は整然としており、作業の途中で書物を放置する事は厳禁であり、終業時には必ず保管施設が毎日繰り返し行われる。氏は和本の修理や日本の伝統技術を彼らに披露してからは、同じレベルの技術者として認められ、それから彼等と共に作業することが出来るようになったとお話であった。

氏がここで学ばれたことは、一般に修復製本が安易に機械でなされる現状の中において、製本、装幀の重要性を知り、そのオリジナルを生かす必要さということであった。

紀元三、四世紀のエジプトのパピルスに始まり、パチメント、ベラム、紙とその材料は変遷してきたが、十五世紀に本の型態が完成されて以来、その四角の形は変

っていない。

ところで洋本の綴じ方に無線綴じと言うニカワを使用する方法が明治初めにまず日本に到来した。所謂洋製本が入って来たのは明治六、七年、大蔵省印刷局で作られたのが始まりで、その後、明治二十二年頃になると洋製本が和装本を駆逐して、横浜辺りには製本所が多く出来た。日露戦争、大震災を経ると製本機械が導入されるようになった。機械化が進むにつれて他の手工芸者と同様、手造りの製本屋は斜陽となり、大正十四年頃には製本屋の分業化が始まるに至っては、彼等は自分達がどの部分を分担しうるか分からず、そうしたまままで現在に至っているという。

製本には本装本、或いは上製本といわれる糸綴じ本で丸味の背の本と文庫本のような簡易製本があり、またフランス表紙（フランス装）と呼ばれる本来愛書家が各自それぞれ好みの製本、装幀をするため貝紙をアンカットにした仮製本のものがある。

製本技術も当初は背の開きが大きすぎて背を痛める事が多かったが、その後十六世紀になりタイトバックと呼ばれる、ニカワで背と本体をつけて固める方法が主流になり十九世紀まで続いた。ただこの方法は背は頑丈であるが、頁の開きが悪く、永年使用するが背割れを起す欠点があった。そこで十

八世紀頃からホローバックという中味と表紙の背とが分離した製本が改良された。

国会図書館の革装本の中でその革が赤茶色で、ボロボロの粉状になって、触れると手や服に粉がついて困るというものがある。それは殆んど日本で製本されたものである。我国ではナメシの技術や製本用の皮革の研究が為されておらず、そのためにおそらく他製品に使用するべき皮革を製本に用いたものと考えられる。然し乍ら大英図書館では製本の材料は各国の本や各年代・各種類に合せ豊富に準備されており、またハナギレ（ヘッドバンド）も各時代のものが整っているとのことである。だから製本の材料を見ることがよってその本の確かな年代や製本地を知ることが出来るわけである。又館員は革装本の保護のために定期的にその革にオイルを塗って行く事が続けられているが、その頻度は五年に一度ぐらいが理想的である。この大英図書館では全収蔵品に一通りオイル塗りをすると五年を要するのだから理想のサイクルで本が保護されているわけである。

痛んだ本を再製本するにあたって、西欧諸国の最近の傾向は痛んだ箇所を分らないように繕うのではなく、直した部分がはっきり解るようになっていることが書誌学的に重要であるという考え方が大勢を占めているという。とくに本の

背面は重要であり、必ずその形、状態が如何なるものであったかを残すようになっている。また見返し紙も今まではともすれば捨ててしまっていたが、それも必ず元の状態や、使用されていた紙が解かるように、例えばジョイントの部分に元の材料が残っておれば、それも必ず残すようにしている。時折古い本にドクイヤー（犬の耳）と呼ばれる（日本では福耳とかエビス紙と呼ばれる）製本時の裁断し損った紙片が頁からはみ出して見られるが、これも印刷時のままに残すという原則が貫らぬかれています。そもそも古い洋書ではこのドクイヤーは裁断ミスではなく、当時の紙の大きさを知らず何冊かに一冊はこれを意識的に入れたということである。

私共もつい体裁をかまて本を改装するが、原本に対するこうした真摯な態度には教えられることが多かった。

金子氏よりこのほか、戦時中の図書疎開の苦労話など興味深いお話をうかがったが紙面の都合上割愛させていただきます。

ともあれ、書物を愛する人々がこうした講演会に共に集い、小さな力ではあるが文化の担い手である書物を少しでも長く後世に残したいと真剣に取り組んでおられるのを見て心強く思うと共に、私共古書業者も価値判断の逆転する今

日においてその事の重大さをもっと痛切に感じ、文化継承の役割をはたすべきことを自覚して帰路についた。

岸本征夫（シルヴァン書房）
前田 司（キコ書店）

探求書コーナー

このコーナーの利用は本誌定期読者に限ります。

左記の書籍をお持ちの方は頒布状態等を直接探求者へお知らせ下さい。

千665宝塚市花屋敷つじが丘12-12
中野 重夫

○「世界文学」9号、35号
京都・世界文学社刊

○「サンス」季刊2号、3号
大阪・創刊社刊

千852長崎市畦別当町六、川原竹一
○向坂逸郎「資本論解説」昭和21年 北斗書院刊

○福井準造「近世社会主義」明治32年 有斐閣書房

○西川光二郎「カールマルクス」明治35年・平社他刊

○メーリング「ハイン研究」佐藤 訳・昭和30年 青木文庫

千607京都市山科区日ノ岡鴨土町43
湯端 晃

○半井真澄編「神職宝鑑」下
千倉吉市大正町2-13

福留 章太

○「ゲーテとシラーの教育思想」
未来社刊

店主の閑話

「本とカタログの偶然」

幸運と不運二題

(その一)

「V・ユーゴのノートルダム
ドパリ、ペロタン ガルニエ版
一八四四年刊を探しています。御
協力下さい。」ある日送られてきた
振替用紙の通信欄に、こんな御依
頼があった。近年お買上を頂いて
いる或る大学に勤められている先
生からであった。が小生にはペロ
タン ガルニエ版がどの様な版元
なのか不詳であって、手掛りはない。
直ぐに探求書リストに加えて
外国の古書店に照会する為、メモ
を机上に置いて数日経った。その
朝、三、四通の新着カタログの中
に今まで見た事のない表紙の一通
があった。それはパリのサントノ
ーレ近くの書店からであった。何
度か店には行ったが、特に買入れ
もした事のない書店である。パラ
バラと頁を開いてみるとアレノ
ユーゴのノートルダム ドパリ
が数点載っている。尚注意深くみ
ると、その中の一冊が何んとメモ
にあるペロタン ガルニエ版だ。
とても高価である。そこで直ぐに
先生に御連絡をして確約を頂いて
発注する事にした。電話で内容を

説明したところ、「思い切って頂き
ましょう。」との御返事。直ぐに
電報を打つ十日程して送られて来
た本を見て、その装幀の美しい事
に驚き、且つ一安心。その日の中
に御依頼者に送品、無事お手元
におさまった。その間約三週間、一
年はおろか、五年十年探しても見
つかない本も多いのに三者こん
な偶然でうまく結びつく事もある
もの。

後日、先生が御来店の折にその
本の良きの御説明頂き、又御満足
の御様子うかがえ嬉しかった。

(その二)

京都組合主催の大手の時であつ
た。何千冊もの和書の中、その一
角に洋書コーナーが少し設けられ
ていた。その端の方に、ゲオルグ
グロスの ECCE HOMO 一九
二三年、初版があつた。娼婦やア
ル中患者、政治家を独特の彩色ス
ケッチ等で描いた本であり、当時
の政府より弾圧発禁となつたわ
く付きの本である。再版本は何度
も扱っているが初版を見るのは始
めてである。「さて、相場はど
れ位かな。」入札額をどれ位にしよ

うか思案した。殆んどの書店は和
書を中心に入札されていて、洋書
にはあまり関心のない様子、入札
紙も多く入っていない。「多分、こ
れで落札するだろう……。」ちよつ
と甘えた値段かと思つたが、とり
あえず入札。数時間経って、いよ
いよ開札。ところが開札をしてみ
ると、京都で永年洋書を扱つて居
られるS書店さんに落札。流石に
良く本を御存知なのだと自分の満
心と不勉強を反省させられた。一
寸残念な気持を残して店に帰り、
その日到着した古書カタログに目
を通していたところ、英国よりの
一通があつて、その中央頁部に、
昼間見たグロスのそれが全頁写
真入りで載っているではないか。



GEORGE GROSZ
ECCE HOMO

小生の予想した数倍の表記価であ
つた。それが小生の未熟を笑う様
に眼前にあつた。

これを見た瞬間、十年位前にド

イツの旧書店を地図をたよりに
初めて訪れた時の事を想いだした。

その古書店は、ミュンヘンから
汽車で三時間位の湖近くの人口僅
か二千人位の村にあつた。

ふもとの山々を見おろす別荘の
様な辺境の村に居りながら、百年
位の間、全世界を顧客に、カタロ
グを中心に取引をしている書店で
あつて、スタッフも御家族を含め
四、五人である。

挨拶もそこそこに、そこに在庫
する書物を見せて頂き、その中に
一冊、素晴らしい織物の本があつた。
が当時の小生としてはそれが全頁
付予算の3/4以上を占める。海外で
の直接買付けも始めたばかりで実
績も無く、随分躊躇していた時、
その古書店主曰く、「良い本、又
気掛りな本に出合つた時は、自分
のその時の気持ちを大切に、
雑念を捨てて、手中に収める努力
をする。お金はあとからついてく
る……。」そしてその言葉に促される
様に、又やや興奮気味にそれを買
う事にした。

結果は帰国と同時に送られて来
たその本を即刻お客様にお見せし
たところ、即決でお買上げ頂いた。
私達は古書取引で生計を立てて
いるのであつて多くは愛書家の皆
さんの為に働くのであるが、と同
時に自らも愛書家でありブックハ
ンターである。その経験、知識の
全てを目前の書物にぶつけてい
かねばならない。その日の出来事

○「美術教育の理念」 光生館
○「人間形成の倫理」 黎母書房
千90山形市双月町一―二六〇

石島庸男

○西国新聞双六

○筆道師家人名録(統編のみ)

千00秋田市手形学園町一―一

秋田大学教育学部 西江秀三

○森山大道の写真集のうち

「にっぽん劇場写真帖」「同続編」

「狩人」「蜚蜉」「写真よきような

ら」「遠野物語」

本誌定期購読者で探求書掲載希
望の方は、編集部までお知らせ下
さい。当誌に出来るだけ取り上げ
てゆくようにします。誌面の都合
で掲載の遅れることや探求書の一
部を割愛させていただくことがあ
りますのでご了承下さい。

尚誌面に掲載しない場合でも当研
究会の情報網にかけ探求致します。

を十年前のブックハントの旅の事
を忘れてかけていた自分に対する警
鐘と受けとめた。

皆さんも永い間古書とのつきあ
いの中にこの様な体験を何度かお
持ちの事と存じますが、これが小
生の近頃体験した、本とカタログ
の偶然と思える二件でした。

これからも、知識を蓄え、自分
の目を信じ、より多く本との一期
一会を楽しむ旅を続けたいもので
す。

(シルヴァン書房 岸本征夫)

古書研だより

第三回春の古本まつり(五月二日)

会場は勸業館二階全フロアーを独占

今年も五月の連休に愛書家、読書家の皆様にお待ちかねの当研究会主催「春の古本まつり」古書大即売会を開催します。会場はお馴染の京都岡崎公園内勸業館。今回より二階の四百坪全フロアーを独占。会員のうち十七店が夫々趣向を凝らした店を構え、昨年以上に充実した優品、掘り出し物を古本漁りを十分楽しんでもいただけるよう品揃しております。

また古書研究会の看板でもあります「子供達を本好きに」を願って児童本の古本コーナーはいよいよ全国一の規模となって登場。さらに今年は児童コーナーの幅を拡げ、現在大きな社会問題になっている「エイジメ」「若年者の自殺」「非行」などを考える研究書も併置して親子ともに楽しめるコーナーを企画しました。

会場正面には当研究会名物の「人札コーナー」や「京都・滋賀コーナー」「花と緑のコーナー」などテーマにあわせて本を選んでいるだけの便利な特設場も設置。全フロアーを古本の山でうめつくそうと会員一同準備に大張り切りです。

「特選総合古書在庫目録」発行

大即売会にあわせて和洋古書約四千点を掲載した、B5判、写真

「秋の古本まつりアンケート」

私達古書研では、昨年の十一月の青空古本まつりの会場で、はじめての試みとして、御来場の皆様の御協力で、古本まつりに関するアンケートをとりました。結果を左記のようにまとめてみました。

- (1) 回答者年令
一〇才以下 二名
一〇才代 九一名
二〇才代 二一九名
三〇才代 一〇二名
四〇才代 七七名
五〇才代 六四名
六〇才代 五一名
七〇才代 一五名
無回答 八名
総数六二九名
- (2) 御職業
(ア) 自営業 五七名
(イ) 会社員 一一八名

版多数の豪華目録「特選総合古書在庫目録・第四号」を発行。一冊五〇〇円(送料を含む)で販売しております。会員店、あるいは左記へ代金を添えて(切手可)お申し込み下さい。

申込先…〒604 京都市中京区東洞院通六角上ル 京都古書組合内「京都古書研究会・目録係」(残部僅少ですのでお早くお申し込み下さい)

- (ウ) 公務員 三八名
(エ) 教職 五七名
(オ) 主婦 九一名
(カ) 学生 一九二名
(キ) その他(無職を含む) 四八名
(ク) 無回答 二八名
- (3) 古本屋をよく利用されますか
(ア) よく利用する 三三三名
(イ) たまに 一八〇名
(ウ) まったく 四四名
(エ) 無回答 七二名
- (4) 古本まつりに来られた回数
(ア) 一回 五八名
(イ) 二回 四六名
(ウ) 三回 一八名
(エ) 四回 二名
(オ) 五回 四名
(カ) 六、七回 四名
(キ) 毎年 一六一名
(ク) はじめて 二八九名
(コ) 無回答 五一名
- (5) この催しは何で知りましたか。
新聞 一三四名
ラジオ 一二名

テレビ 一七名
店頭 三二名
チラシ、ポスター 五九名
友人、知人、親戚 四五名
雑誌、会誌 二四名
「京古本や往来」より 五名
とおりがり 三名
無回答 一七九名

(6) 御感想

大むね大変よかったとの御感想をいただいている、毎年開催して欲しいと強い御希望が多い。「探していた本がみつかった」と喜んでおられる方も多い。御遠方の方も毎年楽しみに待つて居られる御様子、中には良い本を探されて昔の友人に会った様だ。」と喜んで居られ又「注意深く探せば必ず何か面白い本がある。」と書いて下さった方も居られた。

只、次の様な御忠告や御不満もあります。

- オークションをもっと増やして欲しい。
○値段つけがバラバラである。
○自然科学、社会科学系の本が少ない。
○美術や映画関係を安く、多く買いたい。
○雑多すぎて探すのに苦労する。
○スピリカーがうるさい。
○専門書が少なくない。

★寸感として
(1)(2)の年令、御職業欄では、やはり20才代の学生層が圧倒的に多く来て頂いているのですが、他の層

お詫びと訂正

前号「古書研だより」で文庫堂の紹介記事で「東山通りに新店舗を構えた」とありますがこれは白川通りのまちがいです。訂正してお詫びします。

も平均して、多くの愛好家が想像できます。

(3)(4)の古本屋の利用度と古本まつりの関連も、日頃、古書店巡りをされている方の殆んどは毎年の様に古本まつりに足を運んで頂いている様です。

(5)の媒体としては新聞、テレビが大いに我々のこの古本まつりを盛り上げて下さっているのが分かる。又古書店が日常の努力でアピールしているのうかがえる。

このアンケートで本当に多くの古本愛好者の皆さんが強くこの古書研を支持し、見守って下さっている事を痛切に感じ、又心を新たに、このアンケートを基礎資料として、今后共、良書を安く提供出来る古本まつりの実現に向けて行きたいと会員一同、反省と研究を致しております。御回答者の皆様御協力、有難うございました。

次号予定

「京古本や往来」第三十二号は七月十五日発行予定です。

「担当 文化部」

千 606 京都市左京区田中里前町55

福 田 屋 書 店

電話 (〇七五) 七八一一三二六

1	大津絵図譜	昭和46	二六〇〇
2	日本茶道史	昭和29	二〇〇〇
3	九条武子夫人書簡集	昭和4	一八〇〇
4	明治九十九年世相・事件	昭和40	一五〇〇
5	らんぶの絵(箱入)	昭和47	一八〇〇
6	せんば心斎橋	昭和45	三三〇〇
7	船場の医者(大版図誌)	昭和37	二五〇〇
8	卑語考(日本性語志)	昭和32	二五〇〇
9	あぶ・らぶ(異常愛リポート)	昭和41	一五〇〇
10	近代日本性豪伝	昭和44	一五〇〇
11	ミニア 西洋をきずいた書物	昭和52	六八〇〇
12	本の美術	昭和48	二五〇〇
13	イリ 書物の歴史	昭和18	一五〇〇
14	奇想天外 創刊号 第十号	昭和49	八五〇〇
15	イメーゾフォーラム創刊準備号	昭和45	二五〇〇
16	立原道造研究	昭和47	二五〇〇
17	アルチュールランボオ研究	昭和43	二五〇〇
18	荒村遺稿(復刻増補版)	昭和47	二五〇〇
19	埋れた明治の青春(松岡荒村)	昭和57	三三〇〇
20	京人は人を賤うす(志功装幀本)	昭和44	二八〇〇
21	今はむかし(ある文学的回想)	昭和45	一五〇〇
22	文学回想(愛しと見し世)	昭和49	一三〇〇
23	時に付つ(初版帯箱付)	昭和46	二五〇〇
24	憑かれたひと(二つの自伝)	昭和47	二五〇〇
25	第一の性	昭和48	二五〇〇
26	海の火祭	昭和54	二五〇〇
27	鳳仙花	昭和55	二五〇〇
28	わが今昔(中上健次)	昭和35	一五〇〇
29	日本敵討(異相)	昭和48	一五〇〇
30	現代漫画の原点	昭和47	一五〇〇
31	千夜一夜物語	昭和42	四八〇〇
32	10巻揃(大増訂版)	昭和47	四八〇〇

千 602 京都市上京区烏丸通上御霊前下ル
上御霊前町四二二

萩 書 房

電話 (〇七五) 四三一一三二二
振替 京都 八一一四三六

1	ヒマラヤの旅	昭和7	一五〇〇
2	ヒマラヤの旅	昭和50	一八〇〇
3	ヒマラヤの旅	昭和34	二〇〇〇
4	天国地獄ヒマラヤ	昭和34	二〇〇〇
5	ヒマラヤの高峰	昭和40	二〇〇〇
6	雲の上の道	昭和34	二〇〇〇
7	ヒマラヤ	昭和39	二〇〇〇
8	ヒマラヤ	昭和34	二〇〇〇
9	登山ヒマラヤ	昭和36	二〇〇〇
10	地図の空白部	昭和42	二〇〇〇
11	ジュガールヒマラヤ	昭和34	二〇〇〇
12	画文集ヒマラヤ	昭和46	一五〇〇
13	写真集ヒマラヤ	昭和50	一五〇〇
14	空から見たヒマラヤ	昭和53	一五〇〇
15	モンブランからヒマラヤ	昭和31	一五〇〇
16	アルプス	昭和13	一五〇〇
17	エベレスト登攀記	昭和32	一五〇〇
18	マルカンカン初カバ	昭和50	一五〇〇
19	マナスル(六面)	昭和28	一五〇〇
20	カンチエンジュンガ	昭和32	一五〇〇
21	栄光への挑戦	昭和40	一五〇〇
22	白いモアイガイ	昭和41	一五〇〇
23	ジャヌマのたか	昭和42	二〇〇〇
24	山に開く	昭和44	二〇〇〇
25	山に還る	昭和44	二〇〇〇
26	若き日の山行	昭和32	一五〇〇
27	わが山々へ	昭和41	一五〇〇
28	わが山の生涯	昭和32	一五〇〇
29	青春の永初	昭和17	一五〇〇
30	第七級 極限の登攀	昭和43	二〇〇〇
31	現代アルピニズム講座	昭和43	二〇〇〇
32	岩と雪	昭和43	二〇〇〇

千 606 京都市左京区田中大久保町22
(東大路駅電交差北)

山 崎 書 店

電話 (〇七五) 七一七二四八
振替 京都 〇一一八三六

1	読本の質的発展の研究	昭和6	三六〇〇
2	国文学書目集	昭和9	六〇〇〇
3	増大日本女性人名辞書	昭和55	六〇〇〇
4	近世京都出版文化の研究	昭和57	八〇〇〇
5	雑誌の編輯	昭和7	四〇〇〇
6	本誌文学美術人名辞書	昭和55	八五〇〇
7	日本古地図大成	昭和47	二五〇〇
8	和紙稀覯文獻集	昭和45	二五〇〇
9	近世日本絵画の研究	昭和15	三八〇〇
10	京都面影(フースヒ)	昭和16	一八〇〇
11	明治大正の洋画	昭和16	一八〇〇
12	文人講義論	昭和16	一八〇〇
13	近代人の洋画人	昭和34	一八〇〇
14	軍醫森鷗外	昭和18	一五〇〇
15	土曜新聞	昭和15	一五〇〇
16	東洋のリアリズム	昭和34	一八〇〇
17	暹羅之芸術	昭和5	一八〇〇
18	馬来語辞典	昭和17	一八〇〇
19	印度哲学史	昭和18	二五〇〇
20	回教民族運動史	昭和18	二五〇〇
21	言語学序説(改訂版)	昭和29	四〇〇〇
22	標準語研究(ラジオ新書)	昭和16	一八〇〇
23	国語の愛護	昭和13	二〇〇〇
24	日本三大奇書	昭和37	二〇〇〇
25	発禁本	昭和37	二〇〇〇
26	現代風俗帖(初)	昭和47	二五〇〇
27	危険な毒花	昭和32	一四〇〇
28	社会苦の研究	昭和11	二五〇〇
29	新漫画の描き方	昭和3	三三〇〇
30	新画の手引	昭和4	三八〇〇
31	日本の遊戯	昭和52	七〇〇〇
32	日本遊戯	昭和52	七〇〇〇
33	児童・尾張三河童遊集	昭和52	八〇〇〇

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺下ル

三密堂書店

電話(〇七五) 三五一九六六三
振替 京都 四一三四七一

今回は仏教特集

1	仏教の日本の展開佐藤得二著	岩波書店	昭16	二,〇〇〇
2	仏教生活を知る 亀川教善著	顕道書院	昭9	二,〇〇〇
3	仏陀と人生 横田哲平著	豊文館	昭10	一,〇〇〇
4	現代名家新説話 藤永清徹編	顯道書院	昭6	二,〇〇〇
5	聖徳皇太子御経伝北畠具雄編	崇徳会	大11	一,五〇〇
6	正統大乗五蘊論 唐奉詔譯	濃州	江戸期、五〇	
7	五家參詳要路門 東嶺丹慈著	貝葉書院	明再	一,五〇〇
8	増冠金剛経略疏 笠間竜跳編	文光堂	明20	一,五〇〇
9	霧海南針 能仁柏巖著	権中教正	明14	一,五〇〇
10	十不二門指要鈔会本全二冊岩佐普潤著法文館	寛延2八	四〇〇〇	
11	準提菩薩靈驗記全二冊瑜伽沙門如美撰	宝永3三	五〇〇	
12	公慶上人年譜 沙門庸性撰	東大寺	昭48	二,五〇〇
13	弘法大師の生涯を憶う那須政隆著鹿野苑	明4	八〇〇〇	
14	宿旺経全真伝全三冊若原敬著其中堂	明再	五〇〇〇	
15	宿旺経 全二冊 澤楊景風撰	山城屋	江戸期五〇〇〇	
16	増訂永平清規 拝橋首敬撰 永平寺	明再	一,五〇〇	
17	増訂永平初祖遺通用心集古田梵仙編蘇江書店明再	昭10	一,五〇〇	
18	道元禪師の生涯と信仰中根環堂著三省堂	昭再	五〇〇〇	
19	白隠和尚自画像集臨池堂梅生誌貝葉書院	明40	一,〇〇〇	
20	寒山詩講義 若生国栄著	光融館	大1	一,五〇〇
21	改訂仏祖正伝成鈔萬物道坦著鴻徳社	天保4一	〇〇〇	
22	妙法蓮華経講義 織田得能著 光融館 全八冊	昭6	一,五〇〇	
23	法華諸品大意 親月大解識 善行寺藏	昭11	一,五〇〇	
24	写真日蓮統本 星野武男著 萬里閣	昭6	一,五〇〇	
25	親鸞御書巡拝記菊田炎次郎著祖徳謙仰	昭11	一,五〇〇	
26	親鸞一代記 松本青郎著	成光館	大15	一,〇〇〇
27	真宗門徒心得 伊藤義賢著	竹下書寮	昭6	一,〇〇〇
28	帰依と行善 金子大栄著	萌文堂	昭6	一,〇〇〇
29	観世音菩薩の研究後藤大用著	山喜房	明33	三,五〇〇
30	観音十大願文絵抄絵入版本	貝葉書院	明45	一,五〇〇
31	般若心経和訓図会絵入版本	文華堂	大2	三,五〇〇
32	般若心経止啼銭 退蔵蝶蛤述	大溪堂	明9	一,五〇〇

〒604 京都市中京区寺町通三条北

其中堂

電話(〇七五) 二二二一九七二
振替 京都 二一五三八

1	阿育王事蹟 森鷗外・木村西崖	明42	一五,〇〇〇
2	法教大師 初・函	大10	五,〇〇〇
3	法難 六版・函	大9	三,〇〇〇
4	道元禪師 初	昭27	二,〇〇〇
5	釈迦	明35	二,〇〇〇
6	観音経を知る	昭17	二,〇〇〇
7	光をたづねて	昭39	一,〇〇〇
8	禅道探究	昭16	一,五〇〇
9	空月集	昭18	一,五〇〇
10	正法眼蔵釈意一・二・三巻 橋田邦彦	昭17・19	六〇〇〇
11	正法眼蔵の哲学私観 田辺元	昭17	一,〇〇〇
12	寧楽文化巡歴 大屋徳城	昭27	二,〇〇〇
13	平和の発見 果嶋の生と死の記録 花山信勝	昭24	二,〇〇〇
14	国民の自覚 大谷光瑞	昭5	二,〇〇〇
15	親鸞聖人に映える聖徳太子 金子大栄	昭18	一,〇〇〇
16	道元の研究 秋山範二	昭9	五〇〇〇
17	放送菜根譚講話 加藤咄堂	昭33	二,〇〇〇
18	無相大師 萩須純道	昭33	一,〇〇〇
19	耕三寺夜話 耕三寺文化部	昭44	六〇〇〇
20	禅の本質と人間の真理 久松真一他	昭51	七〇〇〇
21	止観の研究 関谷圓照	昭58	二,〇〇〇
22	印度中世精神史上・中二冊楠 足立喜六	昭17	五〇〇〇
23	大唐西域求法高僧伝 長尾雅人	昭49	三,五〇〇
24	西蔵仏教研究 加藤玄智	昭16	二,五〇〇
25	神道精義 吉野神宮誌	昭14	三,五〇〇
26	増訂・中国禅宗史の研究 阿部肇一	昭61	一五,〇〇〇
27	新版・禅学大辞典 駒沢大宇	昭61	二五,〇〇〇
28	世観唯識の研究 上 結城令聞	昭61	一五,〇〇〇
29	全 下	昭61	一八,〇〇〇
30	禅林句集 柴山全慶	昭60	一,五〇〇
31	禅林世語集 土屋悦堂	昭59	一,〇〇〇
32	禅語集	昭50	一,〇〇〇

〒600 京都市下京区七条通堀川角

谷書店

電話(〇七五) 三六一七六九五
振替 京都 一一一七九

1	原始仏教教団の研究 佐藤密雄	昭47	二,〇〇〇
2	仏教教団の研究 芳村修基編	昭43	三,〇〇〇
3	仏教心理学の研究 佐々木正順	昭45	八〇〇〇
4	大乘仏教の成立史的研究 宮本正尊編	昭45	八〇〇〇
5	大乘菩薩道の研究 西義雄編	昭52	一四,〇〇〇
6	大乘仏教研究 宇井伯寿 全8冊	昭54	一五,〇〇〇
7	有部阿毘達磨論の研究 渡辺雄雄	昭40	一四,〇〇〇
8	有部阿毘達磨論書の研究 福原亮蔵	昭29	一四,〇〇〇
9	阿毘達磨思想研究 佐々木理順	昭43	一〇,〇〇〇
10	阿毘達磨全集 全6冊	昭15	一〇,〇〇〇
11	三説阿毘達磨 異部宗輪論 寺本・平松	昭49	八,五〇〇
12	原始般若経の研究 梶芳光運	昭19	一五,〇〇〇
13	インド大乘仏教思想研究 芳村修基	昭49	一五,〇〇〇
14	古代チベット史研究 佐藤長 全2冊	昭52	二五,〇〇〇
15	西蔵大蔵経・総目録・索引(北京版)谷大	昭60	二〇,〇〇〇
16	西蔵大蔵経・総目録・索引(テルゲ版)東北大	昭47	二〇,〇〇〇
17	解説西蔵記 堀・謙徳	昭47	一六,〇〇〇
18	西蔵の仏教(図欠) 羽溪了諦	昭3	五〇〇〇
19	後漢より 訳訳総録 常盤大定	昭48	一七,〇〇〇
20	弘明集研究 上(遺文篇) 京大人文研	昭48	一〇,〇〇〇
21	疑経研究 牧田諦亮	昭51	五〇〇〇
22	摩訶般若經研究 塚本善隆編	昭47	四〇〇〇
23	慈恵研究 木村英一編 全2冊	昭56	二〇,〇〇〇
24	六朝史研究(政治・社会篇) 宮川尚志	昭52	一八,〇〇〇
25	梁高僧伝索引 牧田諦亮編	昭47	一三,〇〇〇
26	唐高僧伝索引 牧田・諏訪編	昭48	一三,〇〇〇
27	日本仏教の開拓とその基調 裕慈弘全2冊	昭53	一五,〇〇〇
28	日本天台史 上杉文秀 全2冊	昭48	一五,〇〇〇
29	増訂 天台座主記 渋谷慈寛編	昭48	一五,〇〇〇
30	浄土教の起原及発達 望月信亨	昭52	一三,〇〇〇
31	浄土教の研究 石田博士古稀記念	昭44	四〇〇〇
32	日本浄土教史の研究 宮崎・藤島編	昭44	四〇〇〇
33	陀羅尼字典 山田達音編	昭51	四〇〇〇

千 60 京都市中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五) 八二一三八九〇

33	臨時備忘 山城織喜郡八幡森本家記	嘉永6	二〇〇〇
32	上総太守親王事状 写本	明治5	三〇〇〇
31	伝演味玄集探票 庖丁料理口伝書抜書	安政3	八〇〇〇
30	河上丈太郎筆 詩一紙 16cm×24cm	昭27	三〇〇〇
29	黒船渡来横濱開港関係資料特別展示品目録	昭27	三〇〇〇
28	勤王志士 高橋有慶筆 書翰一通 昨日(50船曳船来)	昭27	三〇〇〇
27	火消當番二付稲葉準人助筆因幡守様御来京案内状	昭27	三〇〇〇
26	東西両本願寺布教百傑相撲見立番附一紙	昭25	三〇〇〇
25	佛語の連歌 一紙 瓦全漢水有中外	文化5	三〇〇〇
24	花城天満宮略縁記養父村宗雪寺筆一紙	天保4	三〇〇〇
23	鈴木儀左工門書状一通開基御催云々状	江戸初	一五〇〇
22	元大臣岡崎邦輔筆 書状一通	江戸末	三〇〇〇
21	近江国坂田郡梅ヶ原村六所神社本鑑札一個小品	明11	五〇〇〇
20	陶工清水六兵衛筆 葉書一枚	明33	三〇〇〇
19	上泉常陸之助武田家伝軍配物語の書一通	江戸末	三〇〇〇
18	柔道十段 磯貝一先生筆書翰一通	天保11	五〇〇〇
17	台宗総系譜一紙 真宗親惠白誌 版刷	明25頃	八〇〇〇
16	連歌師里村玄川筆書一通三井家宛大虫入	明25頃	八〇〇〇
15	南都興福寺管長雲井良海師筆 書状一通	明25頃	八〇〇〇
14	富士郡板面 大津画麿之図 長絵一枚	天保9	三〇〇〇
13	愛宕郡高寺小学校小試験記点表一紙高等一年	明治中	五〇〇〇
12	慶應義塾医学所之略則一紙	明治中	五〇〇〇
11	永源寺管長石蓮和尚筆 無声庵記一通	大10	五〇〇〇
10	住吉社御遺宮進受領状一通堀筋組木綿仲間	安政5	五〇〇〇
9	本所深川絵図 尾張屋版 彩色木版	安政5	五〇〇〇
8	大倉長右衛門免許状一通大鼓元祖	江戸末	八〇〇〇
7	金春流 大鼓頭附	江戸末	八〇〇〇
6	三案萬箇卿筆 書状一通扇面絵云々大虫入	弘化2歟	二〇〇〇
5	色紙 城戸千橋筆 宜長門	寛文8歟	二〇〇〇
4	奥平美作守忠昌書状一通宇都宮城主の子	明44	二五〇〇
3	清国地図一紙 革命動乱地点註	萬延元	八〇〇〇
2	十一世大倉六蔵免許状一通大鼓元祖	江戸末	八〇〇〇
1	三案萬箇卿筆 書状一通扇面絵云々大虫入	弘化2歟	二〇〇〇
34	花道伝書 一紙 森松庵一郷筆	天保14	三〇〇〇
35	宗門寺請状一通室町頭神宗無學寺筆	安政5	三〇〇〇
36	下間少進仲英嶋山主膳勝成連名書状忠徳寺宛	享保12	三〇〇〇
37	銀五枚金歩台天命伝授之儀師禮金受領書矢野宗繁筆	昭3	三〇〇〇
38	議事所達書隊数減少付持隊差免五人宛陣営廻	昭8	三〇〇〇
39	奈良電鉄職員證見本并奈良切符2枚共	昭3	三〇〇〇
40	姓名花押判書 一業審定	安政6	三〇〇〇
41	竹堂玉堂琴石豆腐帖2冊一冊鉄斎無署名有	明4	四〇〇〇
42	金原長衛正筆極意短一巻大工相伝書	文化9	三〇〇〇
43	仕上糸小亮木鑑札一枚組糸組物仲間平野屋	嘉永6	一五〇〇
44	忠安筆 書状一通	江戸初	三〇〇〇
45	賀茂清茂筆伏見宮相伝道風真蹟写一巻	元禄頃	三〇〇〇
46	尊應准后筆 一行物一幅尊應流開祖	永正11頃	三〇〇〇
47	礼法故実奥儀 伝授状一巻	寛政12	八〇〇〇
48	虎山仙史筆芭蕉翁句空下雨降柳可那人物画一枚	安政12	三〇〇〇
49	彰如上人得度之節出家頃講外如來唱讃等	明17	一五〇〇
50	祐宮様明治天皇中山家御下り中諸弘帳外	安政3	二〇〇〇
51	15ヶ年調達録振振式仕様書勘定元山形屋外	明元	三〇〇〇
52	北小路随光筆主精忠趣相考親見願書一通	明治初	三〇〇〇
53	奈吉左衛門筆 覚状一紙	寛政7	一五〇〇
54	三井様宛請求書一通八角時計五両石炭2両外	明初	三〇〇〇
55	上州家康臣松平近政刀抜いて腕切る火車切刀記2紙	文政7	三〇〇〇
56	ふくさ師蘭僧筆 覚状一紙	明治初	三〇〇〇
57	能斐續江筆 覚状一紙	明治初	三〇〇〇
58	賀茂所 坂正臣筆 和歌一紙	明22	三〇〇〇
59	御歌主 岡本保孝筆貴船奉納月次和歌八木道書家	明22	三〇〇〇
60	金刀比羅山全図につけ有 傷物木版彩色二枚	天保4	三〇〇〇
61	浪花備後町片山識 四柱推命書一紙木版	天保2	三〇〇〇
62	手島堵庵筆 別号東部 布袋画賛一紙	文久3	三〇〇〇
63	古帯織屋仲間 鑑札改一紙	明34	三〇〇〇
64	直入筆 大黒岡拾一 出雲国儒者頼三樹門	明8歟	三〇〇〇
65	節山筆詩一紙桃好格 和歌一紙	明8歟	三〇〇〇
66	文学博士 吉澤義則筆 和歌一紙	明8歟	三〇〇〇
67	栗田月花筆 俳句一紙 江州堅田の人	江戸末	二〇〇〇
68	鳳陽明筆 横物2字 方正一紙しき有	江戸末	二〇〇〇
72	大阪伏見奉行等内藤安房守伝奏文書式折張末尾欠	二〇〇〇	
73	凍吉人筆 横物2字 辨説 一紙 小虫入	二〇〇〇	
74	室町期紙背文書一紙 表一切経22行 虫入傷物	二〇〇〇	
75	清原宣明筆 一行一紙 虫入	二五〇〇	
76	珍宝器物模写 6紙東大寺藏竹服清国往來牌等	天保	五〇〇〇
77	正2位二条基弘卿筆 一行一紙 筆者不詳	三〇〇〇	
78	中国画 めくり一紙	江戸末	一五〇〇
79	涅槃像 彩色一幅	江戸末	一五〇〇
80	谷口嵩山筆 南画小品一紙 墨絵 虫入	三〇〇〇	
81	浅野鶴江筆 和歌一首 前詞長文種山翁為云々	三〇〇〇	
82	猪熊夏樹筆 墨絵堂之一紙 虫入	二五〇〇	
83	西国17番六波羅密寺之図銅版一紙略縁記入	明治中	三〇〇〇
84	御歌所 栗山直扶筆 和歌一紙	大虫入小品めくり	三〇〇〇
85	加茂季鷹筆 消息一紙木版画入	文政7歟	三〇〇〇
86	桐隠筆 梅樹之図一紙 玄対門	昭11	三〇〇〇
87	関東州施政30周年大阪朝日新聞 校上部公告欠	昭23	三〇〇〇
88	帝國貴顕御肖像明治天皇様外 銅版一紙	三〇〇〇	
89	大橋東堤筆 詩一紙 京都の書家名富て	三〇〇〇	
90	梅花うぐすす画 原拓一紙	二〇〇〇	
91	蘭雪筆 村田香谷 梅花うぐすす画賛一紙	三〇〇〇	
92	方牧筆 和歌一紙出雲梓葉の人虫入青木新太夫	三〇〇〇	
93	正受大徳松源龍眼大瑞芳春各東堂傷一紙	一五〇〇	
94	高橋子謙筆 七言絶句一幅 風間氏之為	三〇〇〇	
95	梅住醉中筆 梅樹之図一幅 福岡人	明38	五〇〇〇
96	村田香谷筆75翁 萬歳福寿画賛一紙 福岡人	明38	五〇〇〇
97	81翁 原善翁筆 皇国二千六百年詩一幅	明16	三〇〇〇
98	白堂居士筆一50年来幾苦辛云々須磨詩一幅	明16	三〇〇〇
99	瑞齋先生筆 一行一幅	江戸末	三〇〇〇
100	小入神野虚白筆 曙庵 勅題目出山和詩七言一幅	明39歟	三〇〇〇
101	俳人神野虚白筆 蓮月尼贊一幅	明39歟	三〇〇〇
102	入木道 賀茂泉主藤木秀直筆 登蛇之図一幅	三〇〇〇	
103	虚子先生筆 鶏頭 2字一紙	五〇〇〇	
104	古谷一見筆 はまぐりの図一幅	五〇〇〇	
105	総持寺管長對山和尚筆大智神師偈頌一行書一幅	八〇〇〇	
106	王朝錫筆詩文書一幅	中国明朝期	八〇〇〇
107	鶴亭筆梅樹面賛一紙虫入傷物長崎聖福寺八世号如是	五〇〇〇	
108	鶴益先生紳豪録墨抄長巻一卷箱書一路居士	五〇〇〇	
109	人見少華筆 観音像一幅	五〇〇〇	

〒602 京都市上京区烏丸通今出川上ル

同志社正門前

沢田書店

電話(〇七五)四五二一〇五三
振替 京都 三一九一四八

33	海舟先生 水川清活	吉本襲撰	大文館	昭17	一,000
32	随筆 竹 竹内叔雄	函付	昭森社	昭16	一,000
31	雨の降る日は天気が悪い	土井晩翠	大雄閣	昭9	一,000
30	金メッキ時代下 マークトウエイン那須派	山口書店		昭55	四,000
29	19階日本横丁 初版帯付函出田善衛	朝日新聞社		昭47	一,000
28	当世凡人公川端實資 富岡多恵子 初版	講談社		昭52	一,000
27	女流作家論 初版 奥野健男	第三文明社		昭49	一,000
26	余白に書く 限定初版 滝口修造 函付	みすず書房		昭41	一,000
25	王朝文学の世界 中村真一郎 函付	新汐社		昭38	一,000
24	島尾敏雄論 森川達也 函付	審美社		昭47	一,000
23	故園の書 現代の芸術と批評双書 吉田一穂 厚生閣			昭5	一,000
22	心象風景 牧野信一 作品集 書肆ユリイカ版			昭23	一,000
21	歌集豪雪あけび双書 湯川政治	非売品		昭39	一,000
20	鉄路のうたこえ 一露年国鉄詩集	三書房		昭29	一,000
19	詩集山上祭礼 新田左武郎	くらしお出版		昭36	一,000
18	オーデン詩集 深瀬基寛	せりか書房		昭43	一,000
17	福永武彦詩集 限定小型本 函付	麥書房		昭45	三,000
16	詩集象徴の為賊 生田春月遺著	第一書房		昭5	八,000
15	インスブルックの建築教育クリスチ 野崎武 白水社			昭46	三,000
14	素人にならぬ茶譜の知識 田辺高雄	主婦の友社		昭14	二,000
13	茶道 茶会作法篇 全集巻の一 函付	創元社		昭17	一,000
12	書の歴史 中国篇 伏見冲敬 函付	二玄社		昭43	一,000
11	山本丘人 菊地芳一郎 時の美術社刊			昭35	一,000
10	綜合日本文法講話 三浦圭三	啓文社		昭15	一,000
9	日本書紀神代卷全聖典全集 加藤玄智 改造社			昭5	一,000
8	学生と先哲 河合栄治郎編	日本評論社		昭12	一,000
7	学生と哲学 河合栄治郎編	日本評論社		昭16	一,000
6	古代と中世の哲学少々綴有 立野清隆	世界書院		昭46	一,000
5	非存在の哲学 山本清幸	学術振興会		昭29	一,000
4	近世庶民法資料一輯庄屋 春原源太郎	同出版会		昭42	一,000
3	自治五十年史制度篇 亀井川 復刻文生書院			昭52	五,800
2	南原繁著全集 全十冊揃	岩波書店	函付	昭47	三,000
1	山原五十年史			昭47	三,000

〒606 京都市左京区一乗寺塚本町106の2

白川ビル一F

文庫堂

電話(〇七五)七二二四四四九

1	〈今回は農業関係の調査報告・研究資料等の仮綴本です〉 世界各国の収穫祭 新穀感謝運営委員会	昭25	一,〇〇〇
2	昭和25年度上半期農業経済関係文献集	昭25	五〇〇
3	百姓一揆年表 京大農学部農史研究室	昭34	一,五〇〇
4	但馬における大土地所有の形成と変遷(1) (滋賀農大農経教室彙報) 京大人文研調査報告第1号	昭27	四〇〇
5	湖北積雪寒冷作地帯の農業経営に関する研究	昭28	一,五〇〇
6	中都市近郊農村の農業経営に関する研究	昭29	一,五〇〇
7	土地改良事業地における水田裏作の研究 (農村経済調査彙報) 京大農学部	昭30	二,〇〇〇
8	開拓地農業経営に関する研究	昭25	一,五〇〇
9	農業水利に関する一事例調査	昭26	一,五〇〇
10	農業協同組合経営の財務分析	昭27	一,五〇〇
11	農家経済調査報告書——近畿地区における 昭和25・26・31・32年度 京大農学部	各一〇〇〇	
12	昭和26年度農家経済調査概要	昭31	一,〇〇〇
13	岡山市児島湾干拓地に於ける集落と農業経営	昭31	一,五〇〇
14	昭和30年度 農政実態調査関係資料静岡県	昭32	二,〇〇〇
15	農林水産業の現状と問題点 農林省	昭24	一,八〇〇
16	農林水産品輸出統計	昭33	一,〇〇〇
17	農業経営実態調査報告書 農林省	昭28	二,〇〇〇
18	土地改良投資の経済効果に関する調査 亀岡市	昭25	一,五〇〇
19	農村建設計画策定に関する調査 京都府天田郡細見村 京都農地事務局	昭51	一,八〇〇
20	兵庫農林漁業の現状と問題点 未定稿 岩手県	昭30	八〇〇
21	岩手県農漁業振興対策	昭24	一,五〇〇
22	農業地図資料(低位生産地改良調査) 愛知県農事試験場	昭24	一,五〇〇

24	愛知用水地域における農業就業構造および 農業経営構造の変化 名大農学部	昭37	二,〇〇〇
25	昭和24年度農業計画の概要 福島県	昭24	一,五〇〇
26	農地移動の構造 茨城県農地部農地課	昭30	二,〇〇〇
27	福島県総合農業方策	昭25	一,五〇〇
28	北上川流域水害実態調査	昭25	二,五〇〇
29	農家経済の実態 上巻 静岡農務課	昭30	一,〇〇〇
30	新農山漁村建設総合対策要覧 農林省	昭31	一,〇〇〇
31	昭和30年度産米生産費調査結果 全農会議所	昭31	一,〇〇〇
32	昭和30年度産米生産費調査成績 農林省	昭31	一,〇〇〇
33	静岡農林業 50年版 静岡県経済部	昭25	一,五〇〇
34	アジア極東地域農業経営研修センター報告書	昭32	一,五〇〇
35	世界農産統計'25'40 東亜研究所	昭18	二,〇〇〇
36	農林水産業の現状と対策の基調 愛媛県	昭24	二,〇〇〇
37	昭和24年版農林年鑑	昭24	二,〇〇〇
38	農協利用の階層別実態調査	昭34	一,五〇〇
39	滋賀短大農経教室彙報14	昭25	一,〇〇〇
40	いも類試験研究概要(昭和28年度) 農林省	昭29	一,〇〇〇
41	甘藷試験成績書(昭和29年度)鹿児島試験地	昭30	八〇〇
42	甘藷・馬鈴薯試験研究成績概要(昭和30年度)	昭24	一,〇〇〇
43	いも類に関する資料 食糧庁	昭24	一,五〇〇
44	(経済研究資料)農林省農業改良局研究部	昭24	一,〇〇〇
45	甘藷作の変遷過程	昭25	一,〇〇〇
46	大阪府ぶどう経営地帯の生産構造	昭26	一,五〇〇
47	統制撤廃に伴う甘藷作転換状況調査	昭24	一,〇〇〇
48	新潟県における梨栽培の経済研究	昭30	一,〇〇〇
49	実習並特殊施設 京都府立京都農林学校	昭10	一,〇〇〇
50	栽培原論 野口彌吉 養賢堂	昭22	一,〇〇〇
51	乳牛 井口賢三 共立出版	昭23	一,〇〇〇
52	家畜飼養 海塩義男 清水潔	昭22	一,〇〇〇
53	趣味の森林(増補)	昭11	二,八〇〇

赤尾照文堂

電話(〇七五)二二二一五八八
振替 京都 三三三二六

千604 京都市中京区河原町通六角下ル

千604	京都市中京区河原通六角下ル				
赤尾照文堂	電話(〇七五)二二二一五八八 振替 京都 三三二六				
1	英米文学辞典	西川・平井	研究社	昭60	一、〇〇〇
2	英文学物語	松原 巖	北星堂	昭41	二、〇〇〇
3	趣味の英文学	史的講話	三木春雄	昭3	二、五〇〇
4	英文学のよるこび	石田憲次	研究社	昭42	二、〇〇〇
5	ジョンソン博士とその群	石田憲次	研究社	昭8	一、〇〇〇
6	基督教の文学観	石田憲次	研究社	昭7	一、〇〇〇
7	近代英国の諸断面	石田憲次	星野書店	昭19	四、〇〇〇
8	文学論	竹友藻風	アルス	昭15	四、〇〇〇
9	冬扇帖	竹友藻風	文芸社	昭9	九、〇〇〇
10	書物と人	竹友藻風	文芸書院	昭2	三、〇〇〇
11	英文学随筆	爐に凭りて	平田秀木	昭9	二、〇〇〇
12	英文学印象記	平田秀木	アルス	昭9	三、〇〇〇
13	英詩文をよるあるき	塩谷栄	至文堂	昭5	四、〇〇〇
14	近代英文学の意味	荒川龍彦	南雲堂	昭39	八、〇〇〇
15	現代英吉利文学	西脇順三郎	第一書房	昭9	八、〇〇〇
16	現代英米文学の研究	志賀 勝	創元社	昭10	六、〇〇〇
17	現代英米文学の研究	志賀 勝	研究社	昭30	六、〇〇〇
18	英文学研究 第四冊	東京帝大英文学会	研究社	昭11	四、〇〇〇
19	英文学研究 第五冊	東京帝大英文学会	研究社	昭12	四、〇〇〇
20	英文学研究 別冊	愛蘭文学研究	研究社	昭11	四、〇〇〇
21	イギリス文学と詩的想像	尾島庄太郎	研究社	昭47	四、〇〇〇
22	イギリス文学と詩的想像	尾島庄太郎	研究社	昭47	四、〇〇〇
23	英文学に於ける浪漫主義	大和資雄	研究社	昭26	三、〇〇〇
24	イギリス文学思想史	矢本貞幹	研究社	昭43	三、〇〇〇
25	近代イギリス批評精神	矢本貞幹	研究社	昭43	三、〇〇〇
26	現代イギリス文明批評	矢本貞幹	研究社	昭41	四、〇〇〇
27	愛蘭文学史	勝田孝興	生活社	昭18	三、〇〇〇
28	イギリス文学試論集	平井正穂	研究社	昭40	三、〇〇〇
29	現代の英文学	フレイザー	上田勉	昭29	三、〇〇〇
30	最近イギリス文学論	成田成寿	研究社	昭23	三、〇〇〇
31	二十世紀の英文学	中橋一夫	研究社	昭25	二、六〇〇
32	近代英文学史	矢野峰人	第一書房	昭3	三、五〇〇
33	思想を中心とする英文学史	矢野峰人	第一書房	昭3	三、五〇〇
34	無意識の世界	土居光知	工藤好美	昭41	一、四〇〇
35	英国自然美文学の研究	金子建二	昭3	三、〇〇〇	
36	英米文学植物民俗誌	加藤憲市	富山房	昭51	三、〇〇〇
37	英文学に現れたる花の研究	石川林四郎	昭13	一、五〇〇	
38	近代唯美思潮研究	益田道三	昭森社	昭16	四、〇〇〇
39	現代英国史	スペインダー	中村祐吉	昭27	四、〇〇〇
40	イギリス・ヨーロッパ	戸谷敏之	昭29	二、五〇〇	
41	滞欧印象記	本間久雄	東京堂	昭5	二、五〇〇
42	ロンドン暮色	イギリス紀行	小川和夫	昭31	二、〇〇〇
43	英文学の輪廓	福原麟太郎	研究社	昭2	一、五〇〇
44	英国近代散文集	福原麟太郎	研究社	昭28	四、〇〇〇
45	猫	福原麟太郎随筆集	宝文館	昭26	三、五〇〇
46	日記・芸能	福原麟太郎著者⑧研究社	昭45	四、〇〇〇	
47	イギリス人	福原麟太郎著者⑨研究社	昭50	四、〇〇〇	
48	英国民と清教主義	山本忠雄	京極書房	昭18	三、〇〇〇
49	作家と政治	飯沼馨編	研究社	昭25	三、〇〇〇
50	イギリス新古典主義の詩	村上至孝	研究社	昭41	六、〇〇〇
51	英詩鑑賞 上・下	斎藤 勇	研究社	昭43	一、〇〇〇
52	英詩鑑賞 上・下	斎藤 勇	研究社	昭43	一、〇〇〇
53	英詩から見た和歌形式論	八木冬三	三省堂	昭9	一、八〇〇
54	英詩から見た和歌形式論	宮森麻太郎	三省堂	昭41	一、八〇〇
55	英詩から見た和歌形式論	湯川弘文社	昭17	八、〇〇〇	
56	近代英詩の表現	佐々木達	研究社	昭30	三、五〇〇
57	英詩韻律法概説	石井白村	篠崎書林	昭40	四、〇〇〇
58	ウイクトリア朝詩歌論	金子健二	昭29	三、五〇〇	
59	東洋の詩西洋の詩	富士川英郎	朝日	昭45	八、〇〇〇
60	ものゝ静寂と充実	詩・ことば	荒木享	昭49	二、五〇〇
61	中世英詩「真珠」の研究	成瀬正幾	昭56	一、五〇〇	
62	詩の用と批評の用	エリオット	岡本昌夫	昭19	六、〇〇〇
63	現代英詩の背景	アイザックス	深瀬基寛	昭31	六、〇〇〇
64	カンタベリー物語上下	チャョクサー	金子健二	昭15	六、〇〇〇
65	ミルトン研究	宮西光雄	あぼろし社	昭38	一、五〇〇
66	ミルトン論考	越智文雄	南雲堂	昭38	一、五〇〇
67	言論と自由	ミルトン	石田憲二	昭24	七、〇〇〇
68	コウマス	ミルトン	菱沼平治	昭8	五、〇〇〇
69	ブレイク無心と経験の歌研究	小川二郎	昭50	三、八〇〇	
70	ウィズラム・ブレイクの研究	竹島 泰	昭46	八、〇〇〇	
71	ウィズラムの詩の変遷	金田真澄	昭49	二、五〇〇	
72	キーツの芸術	佐藤 清	英文学会	昭13	四、〇〇〇
73	キーツとロマン派の伝統	水之江有一	昭54	三、〇〇〇	
74	感覚より思索へ	キーツ	川村 泉	昭22	五、八〇〇
75	人生詩人ブラウニング	市河三喜	英文学会	昭12	四、〇〇〇
76	サウル	ブラウニング	帆足理一郎	昭10	四、〇〇〇
77	われとともに老いよ	ブラウニング	福原麟太郎	昭51	二、四〇〇
78	詩聖テニソン	岡沢 武	篠崎書林	昭28	六、五〇〇
79	ブラウニング詩集	岡沢 武	昭5	二、〇〇〇	
80	ダンテ・ロゼッティの研究	小日向次郎	昭14	八、〇〇〇	
81	クリスティーナ・ロゼッティ	加田哲二	昭13	一、五〇〇	
82	ウキリアム・モリス	加田哲二	昭13	二、〇〇〇	
83	シェイクスピア研究	斎藤 勇	研究社	昭38	四、〇〇〇
84	シェイクスピア研究	斎藤 勇	研究社	昭38	四、〇〇〇
85	シェイクスピア研究	斎藤 勇	研究社	昭38	四、〇〇〇
86	シェイクスピア研究	斎藤 勇	研究社	昭38	四、〇〇〇
87	シェイクスピア研究	斎藤 勇	研究社	昭38	四、〇〇〇
88	シェイクスピア批評史研究	中西信太郎	昭45	四、〇〇〇	
89	シェイクスピアの生涯	小津次郎他	昭57	五、五〇〇	
90	シェイクスピアと独逸精神上下	野谷・玉木	昭16	七、五〇〇	
91	シェイクスピアの喜劇	八木 毅	昭49	八、〇〇〇	
92	シェイクスピアの劇場と舞台	菅 泰男	昭38	三、〇〇〇	
93	沙翁舞台とその変遷	菅野徳助	昭14	二、〇〇〇	
94	悲劇オセロ	菅野徳助	昭14	二、〇〇〇	
95	過去と現在	カール・ライル	昭14	二、〇〇〇	
96	ジェーン・ラスキン	浦口文治	昭14	二、〇〇〇	
97	遍歴の王子	ステイヴンソン	昭14	二、〇〇〇	
98	パナード・ショウ真髓	石田憲次	昭8	三、〇〇〇	
99	ヘンリー・ライクロフトの手記	金子書房	昭27	四、五〇〇	
100	最新英語教授法	星山三郎	昭21	二、五〇〇	
101	外国語教授法	語学教育研究所	昭21	二、五〇〇	
102	英語教授法と方法の研究	石黒平	昭5	六、〇〇〇	
103	英文学の言語と文体	東田千秋	昭28	六、〇〇〇	
104	近代英語とその文体	中島文雄	昭28	六、〇〇〇	
105	現代英語進行形の研究	ラン	昭24	三、八〇〇	
106	音韻論と正書法	服部四郎	昭26	二、〇〇〇	
107	語学畑の副産物	豊田 實	昭13	四、五〇〇	
108	翻訳文学発達史	吉武好孝	昭18	四、五〇〇	
109	聖書の英語	市河三喜	昭22	三、五〇〇	
110	小山林堂随筆	市河三喜	昭24	三、五〇〇	

○ 今回だけの **特別** 大奉仕 ○**5/1 (木) ~ 5/15 (木)****創業60周年記念セール開催**

9月末頃、売場面積を倍増して
新装オープンします。どうぞご期待下さい。

〒602 京都市左京区河原町通今出川上ル

(株) 善 書 堂 TEL (075) 231-7711

千606 京都市左京区今出川通百万遍東入 (京都大学前)																																
井上書店																																
電話(〇七五)七八一一三三五一 振替 京都 七一三二四九七																																
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
李王宮秘史	支那史研究	滿洲に於ける国際争覇	滿洲事変	北滿鐵道讓渡交渉関係発表表	日滿經濟統制と農業移民	滿洲写真帖	步兵第五十一連隊史	南洋と華僑	大正大震災大火災	御仕置例類集	京都高等工芸学校沿革誌	同志社紛争史の一餉	京都を中心とする校外教育	傳統産業の近代化	改訂増補 大和古寺風物誌	京都名所	日本労働手報	ライカ読本	農工両全への途	南大阪府向野部落の調査報告	巨椋池排水機計画概要	巨椋池開墾国営工事要覧	漂砂対策調査報告書	東京都の総合防災計画上の諸問題	新潟平野の地盤沈下	大阪府視察調査報告書	神戸市視察調査報告書	石川淳全集	校本宮沢賢治全集			
権藤四郎介	植田捷次郎	市川捷雄	島屋政一	大阪出版社	外務省情報部	東京堂	(中文よりインポート) 非売	井出季和太		司法省調査部	宮崎書店	有斐閣	京都府立小学校教育員会編	友友種業の構造	亀井勝一	京都府	学報社	シュミット商店	東亜農業研究所	大阪府同問題研究	巨椋池土木事務所	農林省農務局	東京都	科学技術庁資源局	科学技術庁資源調査会	科学技術庁資源調査会	科学技術庁資源調査会	科学技術庁資源調査会	科学技術庁資源調査会	科学技術庁資源調査会		
大15	四〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	二、八〇〇	一、五〇〇	五、〇〇〇	八、〇〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇		
昭18	昭10	昭10	昭6	昭9	昭10	昭4	昭45	昭18	昭12	昭16	昭7	昭13	昭13	昭13	昭34	昭20	昭7	昭11	昭10	昭18	昭32	昭8	昭25	昭36	昭36	昭36	昭36	昭36	昭39	昭11	昭49	昭54
四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	二、八〇〇	一、五〇〇	五、〇〇〇	八、〇〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇

〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入

(京都大学前)

井 上 書 店電話(〇七五) 七八一三三三二
振替 京都 七一二四九七

〒606 京都市左京区一乗寺南大丸町95

石 川 古 本 店電話(〇七五) 七一五四二九
振替 京都 七三三〇八九

夢二木版(雪の風)
額装 ¥45,000

(月光仮面原画はインクの
シミの流れ有り)



桑田次郎原画
月光仮面(カラー)
¥80,000
26cm×19cm



桑田次郎原画
まぼろし城(カラー)
¥90,000
26cm×19cm

〒604 京都市中京区河原町通三条上ル
(朝日会館前)

キクオ書店

電話(〇七五)二二二一七六三四
振替 京都 一七六四〇

キクオ書店和洋古書在庫目録 一九八六年版 抜粋

洋書(日本関係)

四	英神戸とその近郊案内 秋山愛三郎 神戸刊	一九元 六、五〇〇
三	英ザビエル布教伝 ヴォール プリュセル刊	一八元 二、〇〇〇
三	英日本民俗史 フリクリイ 三冊合本ニユク刊	一九元 二、〇〇〇
三	英日本旅行案内 ナビレン 第八版 ロンドン刊	一九元 一、〇〇〇
三	英日本史 シヤルボア ツール刊 簡約版	一八元 三、〇〇〇
三	英神戸史話 ゴサド 神戸刊	一九元 三、〇〇〇
三	英太閤記 デニング 東京刊	一九元 三、〇〇〇
三	英日本の花と庭園 デュ・カン ロンドン刊	一九元 三、〇〇〇
三	英浮世絵談話 フイツク 第四版 ロンドン刊	一九元 三、〇〇〇
三	英福翁自伝 福沢諭吉 東京刊	一九元 八、〇〇〇
三	英日本人歩ガイド グラック 全五冊 東京刊	一九元 五、五〇〇
三	英嘉納の柔術 ハンコック・勝沼 ロンドン刊	一九元 三、〇〇〇
三	英日本、過去と現在 ヒルドレス 東京版	一九元 三、〇〇〇
三	英日本と近世の交通 堀田 東京刊	一九元 三、〇〇〇
三	英日本昔噺 ミットフッド 新版 ロンドン刊	一九元 五、〇〇〇
三	英浪沢栄一伝 東京刊	一九元 八、〇〇〇
三	英日本の旧都・京都 ボンソビニ 京都刊	一九元 三、〇〇〇
三	英日本耶穌会刊行書誌 サトウ 複製版	一八元 二、〇〇〇
三	英日本復興誌 東京刊	一九元 三、〇〇〇
三	英東京復興誌 京都刊	一九元 二、〇〇〇
三	英日本・朝鮮の蚊研究 京都刊	一九元 二、〇〇〇
三	和書一伝記	
三	一貫斎国友藤兵衛伝 有馬成明 昭7	六、〇〇〇
三	天山流鉄砲家・牧山忠平伝 横山政吉郎 大14	一五、〇〇〇
三	医聖・水田徳本伝 梅花無儘蔵 一冊・和装 大12	一八、〇〇〇
三	勤王遺稿 栗本鋤雲 明38	三、〇〇〇
三	勤王志士遺墨鑑定録 高橋角太郎 昭12	八、五〇〇
三	篤儒・坂本龍馬 銅像建設会編 昭2	六、五〇〇
三	高杉晋作 村田幸次郎 大3	八、五〇〇
三	東行先生遺文 五十年記念会 大5	八、五〇〇
三	清河八郎遺著 山路弥吉編 大2	一七、〇〇〇
三	大島圭介伝 山崎有信 大4	一五、〇〇〇

三七	副島種臣伯	丸山幹治	大目社	昭11	九、五〇〇
三六	由利公正伝	三岡丈夫編	光緒館	大5	五、〇〇〇
三六	伯爵陸奥宗光遺稿	陸奥廣告	岩波	昭4	三、〇〇〇
三六	土方伯	木村知治	天金・映入	昭4	二、八、五〇〇
三六	原敬全集	田中朝吉他編	二冊 弘文堂	昭27	一五、〇〇〇
三六	近衛文磨	矢部貞治	二冊 淳風書院	昭13	三、〇〇〇
三六	浦敬一	堀薫蔵		昭17	二五、〇〇〇
三六	土族授産の研究	吉川秀造	全改訂版	昭11	七、〇〇〇
三六	明治産業發生史	神長倉真民	ダイヤモンド社	昭11	七、〇〇〇
三六	日本炭礦誌	高野江基太郎	増訂再版	昭41	二〇、〇〇〇
三六	鉦夫待遇事例		縮刷版	大6	三、〇〇〇
三六	日本燈火史	内阪素夫	東京電氣社	昭39	三、〇〇〇
三六	たばこ専売史	本編四冊揃	日本専売公社	昭37	一七、〇〇〇
三六	煙草文獻総覧	字賀田為吉	全九冊	昭52	四、〇〇〇
三六	日本詰話史	山中四郎	二冊 詰話協会	昭37	一七、〇〇〇
三六	明治染織經濟史	服部・信夫	白揚社	昭12	三、〇〇〇
三六	明治織物沿革誌	荒川宗四郎	和装	昭35	三、〇〇〇
三六	桐生織物史人物伝		織物同業組合	昭10	七、〇〇〇
三六	八王子織物史	千藤義重	新泉社	昭9	九、八〇〇
三六	伊勢崎編物同業組合史			昭6	三、〇〇〇
三六	北越機業史	内田慶三・安藤鍾		昭36	三、〇〇〇
三六	博多織物史	帆足小太郎・十時茂		昭29	九、〇〇〇
三六	軍事				
三六	兵政関係史料	伊藤博文編	開發社	昭10	一八、〇〇〇
三六	日本選兵史	飯島茂	内外書房	昭18	一五、〇〇〇
三六	徴兵令制定史	松下芳男		昭18	八、五〇〇
三六	毛利氏水軍と三田尻船廠	御園生		昭4	五、〇〇〇
三六	日本陸軍史	「歴史公論」特集号		昭9	三、〇〇〇
三六	大日本戦争史年表	高橋光寿	三教書院	昭16	六、五〇〇
三六	戦争論 クラウゼヴィッツ	二冊	南北書院	昭6	一七、〇〇〇
三六	海上権力史論	マハン	二冊 東邦書院	昭29	三、〇〇〇
三六	統帥権の独立	中野登美雄	二版 有斐閣	昭9	二、〇〇〇
三六	軍ファシズム運動史	桑部彦	河出	昭37	二、〇〇〇
三六	東洋関係				
三六	宋元学案・補遺	人名字號別名索引	京大	昭49	三、〇〇〇
三六	日本新聞五四報道資料集成		京大人文研	昭58	一八、〇〇〇
三六	明清時代の科学技術史		京大人文研	昭45	五、〇〇〇

三六	中国の科学と科学者	京大人文研	昭53	七、〇〇〇		
三六	中国古尺集説	数田嘉一郎編訳注	昭44	五、五〇〇		
三六	校註荆楚歳時記	守屋美都雄	帝國書院	昭25	三、〇〇〇	
三六	支那の家族制	諸橋徹次	大修館	昭51	三、八〇〇	
三六	支那人に接する心得	原口統太郎		昭14	四、〇〇〇	
三六	北京の中國戯	浜一衛・中丸均卿		昭11	三、〇〇〇	
三六	満洲鉄道建設誌	堀越喜博	南満鉄	昭14	二、〇〇〇	
三六	満洲看板往来	堀越喜博	彩色石版挿絵	昭15	八、〇〇〇	
三六	西ウイグル国史の研究	安部健夫		昭30	五、八〇〇	
三六	韓半島	信夫淳平	東京堂	昭34	二五、〇〇〇	
三六	日本史(幕末・明治初期)					
三七	薩藩士風沿革	鹿児島県教育会編		昭42	六、〇〇〇	
三七	英米蘭連合艦隊幕末海戦記	ルサン		昭5	七、八〇〇	
三七	幕末実戦史	中田康村	宝文館	昭44	六、五〇〇	
三七	薩摩海軍史	公爵島津家編纂所	三冊	政教社	昭44	六、五〇〇
三七	佐賀藩海軍史	秀島成忠	元版	知新会	昭4	六、五〇〇
三七	幕末西洋文化と沼津兵学校	米山梅吉		昭4	九、五〇〇	
三七	西南記伝	黒龍会本部編	全六冊	昭41	四、八〇〇	
三七	薩藩戦史考証	田中鉄軒		昭2	九、八〇〇	
三七	生野義拳と其同志	沢宣一・望月茂		昭7	二、〇〇〇	
三七	条約改正史	山本茂	高山書院	昭19	二五、〇〇〇	
三七	陸奥外交	日清戦争研究	信夫淳二	昭10	一八、〇〇〇	
三六	科学・技術史					
三六	技術の起源	クノイ	日本評論社	昭15	八、〇〇〇	
三六	近代技術史	ダニエリスキー	三笠書房	昭12	二、〇〇〇	
三六	技術と文明	マンフォード	育生社	昭17	三、〇〇〇	
三六	鉄の歴史	ヨハンゼン	背痛	慶応書房	昭9	九、〇〇〇
三六	江戸時代の科学	東京科学博物館		昭9	三、〇〇〇	
三六	水戸烈公の国防と反射炉	関一	誠文堂	昭11	六、八〇〇	
三六	兵器考	有坂錦蔵	全四冊	雄山閣	昭11	三、〇〇〇
三六	火砲の発達	莊司武夫	愛之事業社	昭18	一八、〇〇〇	
三六	日本火術考	西沢勇志智	聚芳閣	昭2	二、〇〇〇	
三六	佐賀藩銃砲沿革史	秀島成忠編		昭9	二、〇〇〇	
残部僅少						
ここに一部を掲載しました	和洋古書在庫目録一九八六一は					
まだ少し残っております	B5判・写真版入・二・三頁、和洋古					
書三六〇〇点余掲載上記項目の他、郷土誌、民俗、風俗等含						
む。	価値価〇〇〇円(送料込、切手可添えてお申下さい)。					

ここに一部を掲載しました「和洋古書在庫目録一九八六」は
まだ少し残っております。B5判・写真版入・二・三頁・和洋古
書二、六〇〇点余掲載上記項目の他、郷土誌、民俗、風俗等含
む。頒価四〇〇〇円(送料込・切手可添えてお申込下さい)。

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

藤井文政堂

電話(〇七五) 三五一九三六三
振替 大阪 七一一一五1 不動尊四大使者之図内二十使 淡彩色 江戸期 金剛持経讀写
仏表具総寸80×220 箱入 一幅 一八〇、〇〇〇円

- 2 古版彩色女神像之図 本紙27×39額装一額 四五〇〇〇円
- 3 五大虚空蔵菩薩 曼荼羅 白線版画 本紙83×128大図
表具イタミ 本紙は美 一幅 五、〇〇〇
- 4 佛足石正図 信曉 大行寺版 57×113 一幅 五、〇〇〇
- 5 北斗二十八宿図像断卷(女斗牛三尊) 淡彩色
正像未文偶有り 17×35 一幅 三、〇〇〇
- 6 釈迦如来曼荼羅 白描 江戸期 24×29 一枚 三、〇〇〇
- 7 国宝風信帖(東寺藏) 真鍋俊照 同朋舎複製 昭55 元、〇〇〇
- 8 国訳一切経 印度撰述部 表紙シッケ本有り(四七冊) 西、〇〇〇
- (欠本巻数) 涅槃部(2) 般若部(1) 大集部(5) 經集部(6)
- 中観部(1) 釈経論部(3) 瑜伽部(5) 論集部(5) 總索引

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番二号

阪急古書のまち

臨川書店 大阪店

電話(〇六) 三七一四一三〇〇番
振替 京都 七一一八〇〇〇番

営業時間 午前十一時—午後八時 定休日 毎週水曜日

- 1 日本文化史 筑摩書房 揃八冊 昭41 五、〇〇〇
- 2 国立博物館ニユース 東京国博 昭44 三、〇〇〇
- 3 国史 日本国史目録 読売新聞社 昭44 三、〇〇〇
- 4 奈良県国史目録 同県国史保存連盟編 昭31 四、〇〇〇
- 5 日本工芸図録 岡田 譲 昭27 三、〇〇〇
- 6 京 華 京都美術倶楽部 昭32 四、〇〇〇
- 7 日本美術資料解説 一〇五 昭23 三、〇〇〇
- 8 英文 日本美術聚英(一) 彫刻工芸 昭23 三、〇〇〇
- 9 増補日本南画史 梅沢精一 昭19 六、〇〇〇
- 10 南画論萃 古川 修 昭8 八、五〇〇
- 11 日本好色美術史 原 浩三 昭33 二、〇〇〇
- 12 平安時代の美術(英文版) 京都国博 昭36 八、〇〇〇
- 13 日本の密教美術 佐和隆研 昭54 二、〇〇〇
- 14 法隆寺宝物集 夢殿叢書第三 昭10 八、〇〇〇
- 15 法隆寺金石文集 村田治郎 昭24 三、〇〇〇
- 16 法隆寺の研究史 内藤一郎 昭8 五、五〇〇
- 17 法隆寺研究金堂篇(一) 昭43 二、〇〇〇
- 18 法隆寺壁面と金堂 朝日新聞社 昭32 四、五〇〇
- 19 法隆寺壁面と金堂 朝日新聞社 昭32 四、五〇〇
- 20 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 21 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 22 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 23 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 24 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 25 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 26 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 27 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 28 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 29 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 30 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 31 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇
- 32 法隆寺金堂壁面解説 昭37 二、〇〇〇

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一

(仏光寺通西新道東入)

京極書房

電話(〇七五) 三五一二五六〇

- 1 郷土史研究調査と方法 日本歴史地理学会 昭19 二、五〇〇
- 2 郷土地理研究 小田内通敬 昭18 二、〇〇〇
- 3 郷土文化を語る 服部清道 昭15 二、〇〇〇
- 4 関道七十年史 祖本痛 昭13 三、〇〇〇
- 5 最近の北海道事情 齊藤栞葉編 昭14 四、〇〇〇
- 6 西蝦夷地日記 田草川伝次郎 昭19 四、〇〇〇
- 7 八戸市議会史 別編 改装美本 昭54 三、〇〇〇
- 8 立川町の歴史と文化 改装美本 昭24 三、〇〇〇
- 9 西小国村地方調査の概要 農林省統計調査部編 昭49 一、五〇〇
- 10 最上時代山形城下絵図 高橋信敬 昭24 一、五〇〇
- 11 佐渡おけさ 郷土芸術双書 木村武雄 昭43 一、〇〇〇
- 12 国史準拠埼玉県郷土史 渡辺亮村 昭4 三、〇〇〇
- 13 武相史蹟名勝総覧(横浜市) 石野 瑛 昭13 二、〇〇〇
- 14 小田原地誌 香川・金子 昭16 二、〇〇〇
- 15 海島民俗誌 本山 桂川 昭9 四、〇〇〇
- 16 山梨県勢批判附県政今昔物語 小沢正一 昭3 二、〇〇〇
- 17 上州路 その旅人たち 萩原 進 昭33 二、〇〇〇
- 18 信濃の旅 紀行と随筆 飯沼源次郎 昭16 二、〇〇〇
- 19 信濃史誌 恩義の実蹟 其教育研究会 昭46 六、〇〇〇
- 20 栃尾郷誌 孔版 武田 勇 昭51 二、五〇〇
- 21 三河古道と鎌倉街道 浜松市役所 昭29 三、五〇〇
- 22 浜松発展史 吉岡 勲 昭33 二、五〇〇
- 23 岐阜県の歴史 近代 久保太四郎 昭7 二、〇〇〇
- 24 飛騨名勝史蹟案内 若林喜三郎 昭45 二、〇〇〇
- 25 石川県の歴史 福井県内務省 昭44 二、〇〇〇
- 26 福井県産業概要 福井県内務省 昭44 二、〇〇〇
- 27 福井県郷土誌 改装 昭52 六、〇〇〇
- 28 敦賀市 史料編5 改装 昭54 五、〇〇〇
- 29 新撰鯖江誌 松井政治編 昭3 四、〇〇〇
- 30 大野町史 3、近世篇 其編纂会 昭29 四、〇〇〇
- 31 九頭竜川は生きている 藤井幸永 昭36 一、五〇〇
- 32 伊豆半島 印有 昭2 三、〇〇〇

〒606 京都市左京区浄土寺西田町八十一
法律・経済思想 **竹岡書店**
電話(〇七五) 七六一・四四五・四
振替 京都 五一四二六二二

文庫特集

岩波文庫

1	旧約聖書 詩篇(少線引)	関根正雄訳	昭48	一、〇〇〇
2	ハルナック 基督教の本質	山谷省吾訳	昭16	〇〇〇
3	ダーウイン チャールズ・ダーウキン	小泉 丹訳	昭2	二、〇〇〇
4	自叙傳宗教観及び其追憶	大岩誠訳	昭25	一、〇〇〇
5	ロツシア 第三階級とは何か	山田雄三訳	昭17	一、〇〇〇
6	メトリイ 人間機械論	杉 捷夫訳	昭7	一、〇〇〇
7	ボアンカレ 科学の價値	田邊 元訳	昭13	一、〇〇〇
8	リツケル 文化科学と自然科学	佐竹他訳	昭25	一、〇〇〇
9	ラスキン この後の者にも	西本正美訳	昭15	一、〇〇〇
10	フイヒテ 学者の使命、学者の本質	宮崎訳	昭17	一、〇〇〇
11	オイケン 七大哲人	安部能成訳	昭14	一、〇〇〇
12	ヴィンデルバント ソクラテスに就て	河東 清訳	昭16	一、〇〇〇
13	ボアンカレ 晩年の思想	河野伊三郎訳	昭17	一、〇〇〇
14	リルケ ロダン	高安國世訳	昭16	一、〇〇〇
15	ケール博士隨筆集	久保 勉訳	昭14	一、〇〇〇
16	ステイヴンソン	岩田良吉訳	昭14	一、〇〇〇
17	若い人々のために 其他	水谷 他訳	昭17	一、〇〇〇
18	ケイロ 友情について	原田 實訳	昭15	一、〇〇〇
19	アメーの日記	河野與一訳	昭14	二、〇〇〇
20	ゲーテ 詩と眞實	小牧健夫訳	昭16	三、〇〇〇
21	ゲーテ ウィルヘルム・マイステルの	小宮豊隆訳	昭28	二、〇〇〇
22	ゲーテ 徒弟時代	全三冊 関 泰祐訳	昭39	二、〇〇〇
23	ゴーゴリ 遍歴時代	全三冊 平井 肇訳	昭15	一、〇〇〇
24	モーパーサン モントリオール全二冊	杉 詠訳	昭32	一、〇〇〇

25	モーパーサン	ビエルとジャン	前田晃訳	昭28	六〇〇	
26	ベル嬢他七篇	杉捷夫訳	昭30	五〇〇		
27	口髭・寶石	木村庄三郎訳	昭30	五〇〇		
28	酒樽 他六篇	水野亮訳	昭28	五〇〇		
29	イプセン	月下の惨劇	森村豊訳	昭13	一、〇〇〇	
30	イプセン	民衆の敵	竹山道雄訳	昭14	一、〇〇〇	
31	メリメ	野 鴨	杉 捷夫訳	昭17	一、〇〇〇	
32	テニスン	イン・メモリアム	入江直祐訳	昭7	六〇〇	
33	ロラン	獅子座の流星群	片山敏彦訳	昭50	一、〇〇〇	
34	ミレー	蛇原徳夫訳	昭45	五〇〇		
35	ヘッペル短編集	実吉捷郎訳	昭17	一、〇〇〇		
36	憲法義解	伊藤博文著	宮澤俊義校註	昭11	一、〇〇〇	
37	俗楽旋律考	上原六四郎	昭11	一、〇〇〇		
38	日本開化小史	田口卯吉著	昭18	二、〇〇〇		
39	訓読 日本書記	全三冊	黒板勝美編	昭11	一、〇〇〇	
40	続日本紀宣命	倉野憲司編	昭11	一、〇〇〇		
41	碧 録	全二冊	朝比奈宗源訳註	昭12	一、〇〇〇	
42	平治物語	岸谷誠一校訂	昭13	一、〇〇〇		
43	水 鏡	岸谷誠一校訂	昭5	一、〇〇〇		
44	眞景累ヶ淵	和田英松校訂	昭31	一、〇〇〇		
45	日本の目覚め	岡倉寛三著	昭16	一、〇〇〇		
46	二宮翁夜話	福住正兄筆記	佐々井信太郎校	昭15	一、〇〇〇	
47	布施太子の入山	村岡 博訳	昭18	一、〇〇〇		
48	武家義理物語	井原西鶴作	昭15	一、〇〇〇		
49	義経千本櫻	竹田出雲等作	昭33	一、〇〇〇		
50	義経千本櫻	竹田出雲等作	昭33	一、〇〇〇		
51	桐 畑	尾見 淳	昭26	五〇〇		
52	太陽のない街	徳永 直	昭28	五〇〇		
53	二人女房	尾崎紅葉	昭28	五〇〇		
54	マルクス	フランスにおける	階級闘争	宮川實訳	昭27	五〇〇
55	青木文庫					
56	トリアッティ	コミンテルン史論	石原他	昭41	一、〇〇〇	
57	胡 喬木	中国共産党の三十年	浅川訳	昭29	一、〇〇〇	
58	アレクサンドロフ	ソヴェトの	学校教育	昭28	一、〇〇〇	
59	哲学史	古在由重編	昭30	一、〇〇〇		
60	哲学史	古在由重編	昭30	一、〇〇〇		

61	人間論	大山郁夫・清水幾太郎他	山崎 謙	昭41	八〇〇
62	愛国者の道	戸田武雄	昭27	八〇〇	
63	近代経済学批判	宮川 実編	昭26	八〇〇	
64	一般的危機とファシズム	林 要	昭27	五〇〇	
65	金融資本の理論	中野重治編	昭30	一、〇〇〇	
66	栗林一石路句集	坂本徳松	昭30	一、〇〇〇	
67	前進座	藤島宇内解説	昭31	五〇〇	
68	原民喜詩集	田所輝明訳	昭5	一、〇〇〇	
69	改造文庫	三輪 誠	昭5	一、〇〇〇	
70	リーグ プレブス経済学	林 房雄他	昭5	一、〇〇〇	
71	カウツキー エルフルト綱領解説	荒畑寒村	昭5	一、〇〇〇	
72	ボグダノフ 経済科学概論	内田佐久郎訳	昭6	一、〇〇〇	
73	ラファルグ 財産進化論	中栄光泰訳	昭8	二、〇〇〇	
74	ラヴィンスキー 財産起源論	石中象治訳	昭13	一、〇〇〇	
75	ラッパポート 社会進化と婦人の地位	上田進訳	昭14	一、〇〇〇	
76	リュキス 社会進化と生物進化	ルケンヒ	昭16	一、〇〇〇	
77	ロンドン 奈落の人々	横井時冬	昭10	二、〇〇〇	
78	アルツィバシエフ 人波	桑木巖翼	昭15	一、〇〇〇	
79	ラスキン 建築と絵画	佐藤信淵	昭18	一、〇〇〇	
80	ドーレン アメリカ文学史要	森 鷗外	昭15	二、〇〇〇	
81	ヘッセル短編集 紅 玉	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
82	ゴリキイ 幼年時代 全二冊	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
83	ブレントノ アイラケツガ	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
84	プレスコット ベル征服全冊	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
85	日本工業史	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
86	日本商業史	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
87	哲学概論 我と物	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
88	垂統秘録・混同秘策	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
89	伊澤蘭軒 全三冊	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
90	北村透谷選集	島崎藤村編	昭4	五〇〇	
91	ル・ボン 群衆心理	櫻井成夫訳	昭28	一、〇〇〇	
92	ベッカー 西洋音楽史	河上徹太郎訳	昭26	一、〇〇〇	
93	ロマン派音楽の潮流	諸井三郎	昭27	一、〇〇〇	
94	ベートーヴェンの言葉	原田義人訳	昭28	一、〇〇〇	
95	日本演劇通史	河竹繁俊	昭26	一、〇〇〇	



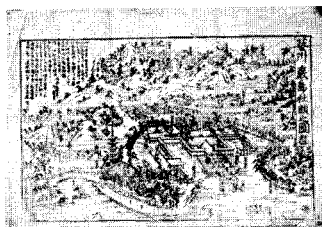
6



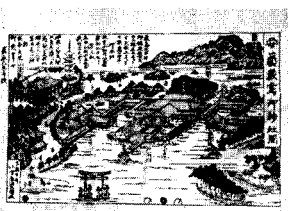
1



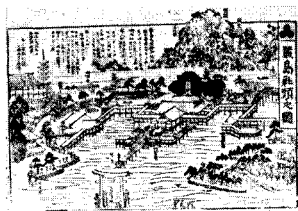
7



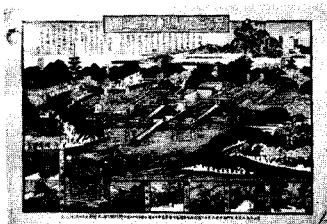
2



8



3



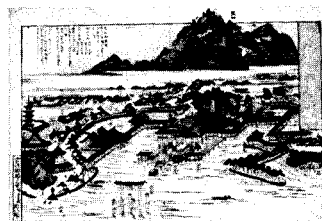
9



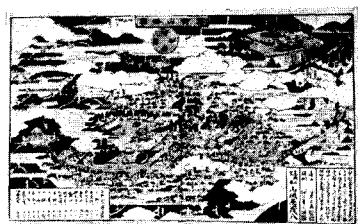
4



10



5



12



11

大書堂
電話(五)三二一〇六八五
振替 京都 七三三六五

〒604 京都市中京区
寺町通錦上ル

- 1 大日本安芸国厳島神社略図 明27
木版彩摺 森光治郎板 33×48
- 2 芸州厳島神社之図 江戸末
木版墨摺 伊予屋久兵衛板 36×47
- 3 厳島神社之図 江戸末
木版彩摺 35×49
- 4 日本三景之一 厳島神社之図 大7
石版彩摺 野村銀次郎板 34×50
- 5 厳島神社之図 江戸末
木版彩色 竹原屋右八郎版 34×47
- 6 厳島神社頭之図 江戸末
木版墨摺 34×47
- 7 厳島神社頭之図 江戸末
木版彩摺 正木屋房吉板 34×48
- 8 安芸厳島御神社図 喜永6
木版彩摺 小方屋治兵衛板 33×47
- 9 日本三景之一 官幣社安芸厳島真図 大8
石版彩摺 瀬山律三板 27×40
- 10 大日本三景安芸国宮島 明22
石版画 36×47

厳島神社之図 10枚一括
¥180,000

- 11 高野山独案内 文政10
木版墨摺 69×41
- 12 高野山略図 江戸末
木版彩色 書林山城屋茂八板
高野山之図 2枚 ¥85,000

603 京都市北区小山下内河原町六三
古書籍 東方書

電話 (〇七五) 四九一一三〇七二

1	音樂研究 一卷二、三、四号	音樂研究社	大12
2	音樂唱歌集 第三卷	新興音樂出版社	五、五〇〇
3	中學英語唱歌集	常深重二郎	二、五〇〇
4	歐米學校唱歌集	巖本棧治	大6
5	日本唱歌集	樂書刊行協會	明45
6	音樂教本	福井直秋	明40
7	高等小學唱歌	文部省	大6
8	教科中學唱歌 第一卷 田村虎藏	檢定済	大6
9	新編中等唱歌集 鈴木太鶴	檢定済	明40
10	聲樂楷本 山本正夫	明40	明40
11	簡易復音唱歌集 小松耕輔他共編	明43	明43
12	理想的唱歌教材 佐々木すぐる	昭和二年	昭和二年
13	合輯新作唱歌 吉丸一昌	昭和三年	昭和三年
14	最新音樂教科書 第一卷 教師用 茂田光吉	昭和13	昭和13
15	中等音樂教科書 山田源一郎	檢定済	大10
16	コーレユンゲン 三木作助	檢定済	昭和9
17	中等唱歌 東京音樂學校	檢定済	昭和2
18	小學唱歌集伴奏奏譜 全一冊 山田源一郎	大9	大9
19	高等小學讀本 一、五卷	文部省	明21
20	尋常小學讀本 第二、一、文部省	大8	大8
21	尋常小學讀本(六、丙七)	文部省著作	明36
22	尋常小學讀本(三、四七)	文部省著作	明37
23	中等國語 一、2、3	文部省	昭和13
24	中等國語 二、1、4	文部省著作教科書	昭和23
25	國語 六、學年上、中、下	文部省	昭和24
26	尋常小學校修身書 二、四年兒童用	文部省	昭和24
27	女子修身書改訂版二、四下田次郎	檢定済	大14
28	高等小學修身書 卷二 兒童用	文部省	昭和6
29	大正補習農業書 神戶昌平	初程度	大4
30	尋常小學校地理書 卷一、二	文部省	昭和9
31	地理新編 下冊 内田嘉一	明22	明22
32	小學地理 二	文部省著作	明37
33	高等小學地理書卷一、二、兒童用	文部省	大14

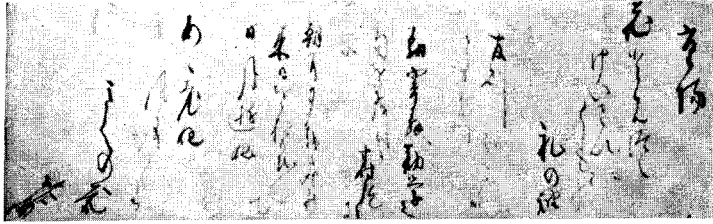
34	尋常小学校理科書 四学年教師用	文部省	昭4	三、〇〇〇
35	高等小学国史 下巻	文部省	昭12	二、〇〇〇
36	小学国史教師 上巻	文部省	昭6	四、〇〇〇
37	尋常小学国史 上巻	文部省	昭10	二、〇〇〇
38	中等日本歴史地図 藤田明	文部省	昭45	三、〇〇〇
39	中等日本歴史地図 初級用 藤田明	大5	二、〇〇〇	二、〇〇〇
40	小学国史附図 六学年 学習研究会	昭16	二、〇〇〇	二、〇〇〇
41	尋常小学国史 下巻	文部省	昭12	二、五〇〇
42	高等小学国史 上巻	文部省	昭12	二、五〇〇
43	美術教室指導書 久野健他	昭27	三、五〇〇	三、〇〇〇
44	美術教室指導書 和田三造他 検定済	昭11	三、五〇〇	三、〇〇〇
45	尋常小学国史 一学年男女用	文部省	昭9	二、〇〇〇
46	尋常小学国史 六学年男女用	文部省	昭10	二、〇〇〇
47	尋常小学国史 一学年男女用	文部省	昭9	二、〇〇〇
48	尋常小学国史 六学年男女用	文部省	昭10	二、〇〇〇
49	教育心理 上・下	文部省	昭23	四、〇〇〇
50	時局に関する教育資料 第七輯	大5	二、五〇〇	二、〇〇〇
51	小学校各教科の学習指導法 木宮乾峰他	昭26	八、〇〇〇	八、〇〇〇
52	晩近小教科管理法 篠原助市 検定済	昭12	三、〇〇〇	三、〇〇〇
53	晩近小教科管理法 篠原助市 検定済	昭2	三、〇〇〇	三、〇〇〇
54	中等標準読本とその評釈 岩間編 吉田桐野	昭6	五、〇〇〇	五、〇〇〇
55	伝記による社会科新単元の展開 教育技術増刊	昭30	三、五〇〇	三、〇〇〇
56	小学校各基礎学習の指導 教育技術連盟	昭29	三、五〇〇	三、〇〇〇
57	初等科手工教科書 上巻 岡山秀吉他 手	昭18	四、〇〇〇	一、五〇〇
58	初等科手工教科書 下巻 岡山秀吉他 手	昭18	四、〇〇〇	一、五〇〇
59	広島県立広島第一中学校一覽	大13	四、〇〇〇	四、〇〇〇
60	真宗大谷大学一覽 大正六年、七年	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
61	蒼穹 第六号 京都帝大陸上競技部	昭8	三、〇〇〇	三、〇〇〇
62	校友会雜誌 三松山高等学校文芸部	昭6	五、〇〇〇	五、〇〇〇
63	青年読本 巻一 京都市教育会	昭9	一、〇〇〇	一、〇〇〇
64	青年国語読本 二、三 国語教授研究会	昭9	一、五〇〇	一、五〇〇
65	あたらしい憲法のはなし 文部省	昭22	三、〇〇〇	三、〇〇〇
66	現代教育の形態と其動向 渡部政盛	昭8	九、〇〇〇	九、〇〇〇
67	歴史学及歴史教育の本質 中川一男	昭5	八、〇〇〇	八、〇〇〇
68	銅駝尋常小学校沿革史 上野磯治郎	昭9	七、〇〇〇	七、〇〇〇
69	銅駝尋常小学校沿革史 上野磯治郎	昭13	九、〇〇〇	九、〇〇〇
70	日本の教育第四集 日本教職員組合	昭30	三、〇〇〇	三、〇〇〇
71	京都府学事関係職員録 京都府教育会	昭12	六、〇〇〇	六、〇〇〇
72	新教育における道德教育の展開 滋賀県教委	昭26	五、〇〇〇	五、〇〇〇

73	滋賀県言語の調査と対策	方谷調子編 井上石有一	昭27
74	漢字用語調査	教授用資料 修訂版(国語院編)	昭35
75	学校年間団の理論と訓練	大沼直輔	昭23
76	P.T.A研究	金子孫一	昭13
77	日本の運命と教育	長田新他	昭28
78	小学校国語能力調査	京都府教育研究所	昭24
79	日本の社会科	勝田守一他	昭28
80	コア・カリキュラム	梅根悟	昭24
81	櫻田カリキュラム	古川正義他	昭24
82	初等教育の原理		昭26
83	保健双書 簡易保険局		昭5
84	社会事業史 社会事業双書本	山口正	昭13
85	トウモロコシ万国史直訳	松村為亮訳	明34
86	西国立志編 再版	中村正直訳	明27
87	伝道の精神	朝日鑑三 初	明24
88	時局問題批判	内村新聞社	大13
89	明治維新の全貌	早稲田大学講演部	昭10
90	彦根山由來記	中村不能斎	明43
91	三河に於ける東海道の変遷	小冊 大口喜六	大5
92	平安神宮要覧	竹田武雄	昭10
93	隨筆瀬戸内海	布田源之助	昭27
94	新編裁縫字全書	高橋貴四郎	明44
95	農政革新論	北條直正 裏表紙痛み	大3
96	韓国林制史	全 白河貞吉	明35
97	韓国の併合と国史	喜田貞吉	明43
98	朝鮮臨淵言行録	陸実編	明28
99	明治思想 立命館大学人文科学研究所紀要13号		二九三
100	湖東移民村の研究	立命館大学文研紀要14号	二九四
101	町村合併 立命館大学文研紀要9号		二九六
102	青少年白書	中央清少年問題協議会編	昭32
103	方面委員制度指針	海野幸徳	昭4
104	国憲汎論 下巻	小野梓	明18
105	和裁八書	西部裁縫女学会 八冊	昭33
106	北緯耶蘇大敗北	二浦兼助	明25
107	善悪標準 寺田福寿	上部シミ	明26
108	説教惟中策	八巻泰嶽	明32
109	マレー血戦カメラ戦記	影山匡勇	昭18
110	縮刷独歩全集	国木田独歩	大14
111	満洲百三十景	財藤勝蔵	昭8

〒604 京都市中京区
新鳥丸通竹屋町上ル

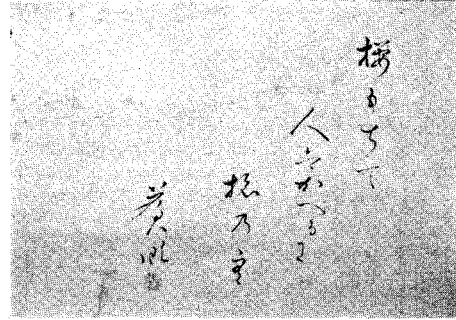
文藻堂

電話(五七)三二一九二四
振替 京都 八一六一五



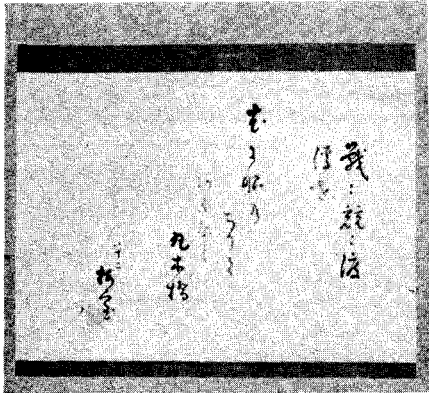
1 松木淡々 重陽ノ句入詞書
末表装(紙本 55×17 浬) ¥60,000

2 成田蒼虬 桜の句
末表装(紙本 42×31 浬)

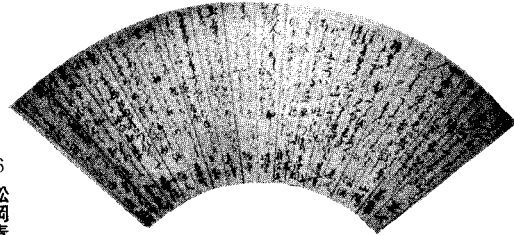


桜もちて人はかへるに旅の空 蒼虬圖 ¥15,000

3 桜井梅室 丸木橋の句
紙表装(紙本 46×34 浬) 杉箱入

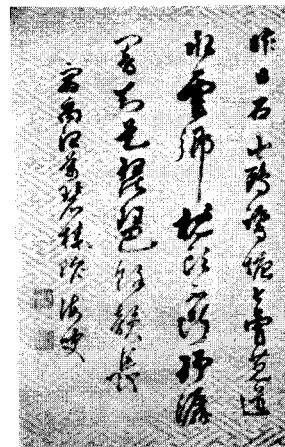


戦々競々渡浮世 花に眼のちりてあぶなし丸木橋 八十二桜室圖 ¥35,000



4 狂歌師寄書扇面 末表装
米人、万象、山陽、俊満、幽人、道頼、御津風
道守、物梁、真稀、万室、慈悲成、千賀江、真頼他
¥30,000

5 買名海屋 七絶詩
末表装(綿子地 28×45 浬) 三五、〇〇〇円



昨日石山崎蟹糖 今宵菟道水雲郷
枕頭不眠○海閑 知是琵琶余韻長
宿馬江万碧樓作 海屋印固

6 松岡青蘿 短冊
古稀賀 まれに見る霞の不二を老の友



一二、〇〇〇円

7 野村望東尼 短冊
よねをつくうききつ、みのかたべにも
すみでくま、くほしき山水 望東



檀紙 五五、〇〇〇円

8 大徳寺 大綱 短冊
煙草



しほがまの浦ならねども煙くさ
煙をふかぬ人ぞすくなき 大綱
三五、〇〇〇円

— 性文学挿し絵本 —

1. Les Bazar de la Volupté W.Prille 他著 Gay savoir 集 No.7 背角布、マーブル表装
¥8,000
2. バリ国立図書館の発禁本の棚 G.Apollinaire 他著 体系的書誌と批評 415頁 4to.
布装、マーブル パリ 1919 ¥18,000
3. フェリシャン ロプス F.Rops 画 28 Titelblade 28×20 492部限定 デンマーク
ケース入 ¥30,000
4. L'ensorcelee D'Aurevilly 著 262頁 33木版挿図 G.Pastre 画 背角革、天金
20.5×15 H.ジョンキレ 刊 美本 1922 ¥20,000
5. ジャック・カサノバ I・II C.Samaran 著 18.5×12 マーブル厚紙装 C.Levy 刊
2冊 ¥22,000
6. 若き女性の城(Das M'ächenschloss) F.ジラー著 F.ホッヘンシャイト訳
C.アバランシュ創画 8図+挿画多数 206頁 2×14 背角革 Eros Ed. ロンドン ¥15,000
7. Le Genie et les Fumisteries du Divin Montherlant 著 見開き頁に P.Hermann
ボンヨワ刷画、石版図多数 102頁 24×19.5 625/1400限定 パリ ¥28,000
8. Histoire du chevalier des Grieux et de Manon Lescaut. Prevost 著 270頁 背革、
マーブル表紙 (テキスト1753年) パリ 1927 ¥8,000
9. Erotische Geheimberichte. F.グランドビエール著 222頁 21×14 背角革
Eros Ed. 私家版ロンドン 稀少 ¥15,000
10. Seigneur de Brantome 美談 J.Herman 想画 1色図 84頁 24.5×19.5 紙原装 1670/1700 限定
G.Cres 刊 1924 ¥22,000
11. Visites Fantastiques au pays dn Fouet A.v.Rod 著 222頁 G.Topfer 画 8挿図 4色刷 23×14.5
背角革 パリ 1922 ¥28,000
12. 告白 J.J.Rousseau 著 A.D.V.Bever 序文 + ノート 310+369+268頁 18.5×12 背革、パリ
揃3冊 1926 ¥36,000
13. エロチック文学図史 B.スターン著 262頁 14図 第1巻 私家限定番号本、第205番本
1908 ¥8,000
14. アリアン・ロシアの乙女 C.Annet 著 A.ベロッフによるオリジナル木版図入 126頁 4 to.
ドマン書店刊 1928 ¥8,000
15. 風流滑稽譚 バルザック 著 J.エマール画 25色彩図 286+282頁 19×14 紙原装
G.Cres 刊 1926 ¥80,000
16. Le Fouet Libertin A.Kardy 著 淫蕩記 7挿図 22×14.5 背角革、金印字、マーブル
Franco-Anglaise 刊 1926 ¥28,000
17. Le Bandeau F.Champsaur 著 -358頁 326挿図 5色図 R.Kirchner 画 20.5×13.5 背角革、一蔵書票付
La Renaissance du Livre 刊 初版 1916 ¥25,000
18. G.クルトリンの哲学 G.Courteline 著 396頁 J.Hemard 画 28 ポショワール色刷 22.5×17
Trianon 刊 1930 ¥45,000
19. Songs Experience W.ブレイク画 大英博蔵版複製 26色図 25.5×16.5 E.ベン 刊 初版
1927 ¥35,000
20. 天国と地獄の結婚 W.ブレイク画 F.ウィリアム美術館蔵版複製 (1825—1827) M.Plouman 文
24+27色図 Dent. ロンドン刊 美本 1927 ¥45,000
21. The Book of Urizen W.ブレイク画 D.Plouman 文25頁+28色刷図 25×19 布紙金字 複製版
Dent 刊 N.Y. 初版 1929 ¥60,000
22. Bilder des Todes H.ホルバイン画 46頁39図 8 vo. インゼル刊 美本 ¥10,000
23. Die Minnefinger in Bildern H.ナウマン画 48頁 24色図 インゼル刊 ¥10,000
24. Nostromo 堅パンの話 J.コンラッド著 566頁 22×14.5 Dent 刊 1923 ¥15,000
25. The Rescue a Romance of the Shallows. J.コンラッド著 404頁 19.5×13 布装 N.Y.
1920 ¥3,000
26. Little Dorrit C.ディッケンズ著 H.K.ブ라운挿画 625頁 23×15 緑布装 ロンドン
1877 ¥25,000
27. Andrea da Castagno 1423—1457 V.ヴァンシェー著 87頁、23図 1938 ¥5,000
28. コールリッジ詩集 E.H.Coleridge 序文 G.Metcalf 画 477頁 102図、金彩装飾布装 天金
22.5×15 Ballentyne 印刷 No Date. ¥85,000
29. Ossian の詩集 J.Macpherson 序 436+388頁 21.5×13.5 T.Bensley London 稀少 総革装美本
2巻 1807 ¥135,000
30. Alles um Liebe ゲーテ書簡 E.ハルテング編 431頁 19×12.5 紙装 1907 ¥4,500
31. ツァラストラは如く語りき F.ニーチェ著 1882—1885 502頁 A.F.Kno'ner 刊 1927 ¥4,500

〒 600

京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話(〇七五)三四一七八七三
振替 京都 一七九三三八

普及版
法名戒名大字典
8000円
釈慶嚴編

みたまを鎮める
供養文のひびき!

カセットテープ付

天台宗諷誦・歎徳文集
吹込 天納傳中 (叡山学院教授)
真言宗諷誦・表白文集
吹込 新井弘順 (上野学園日本音楽資料室研究員)
浄土宗歎徳・表白文集
吹込 津田徳翁 (浄土宗法儀司・大本山浄土寺教授)
浄土真宗本願寺派表白文集
吹込 白井誓海 (築地本願寺副輪番)
真宗大谷派歎徳・表白文集
吹込 近松暢普 (東本願寺式務部部長)
臨済宗引導香語集
吹込 小池心叟 (臨済会会長・白山道場師家)
曹洞宗引導香語集
吹込 前川博邦 (東山日泰寺専門・備前副堂長・後堂)
日蓮宗歎徳文集
吹込 早水日秀 (大本山池上本門寺・法務部執事)
各3800円

武石彰夫編／全3巻・28500円
かけがえない日本の文化遺産である和讃・御詠歌に広く親しむために恰好の全集。仏菩薩・高僧から身近なもので約550点を集大成し、大きな活字と総ルビで読み易く編集。仏教関係者・図書館必備の書である。

仏教和讃御詠歌全集

相馬泰全編

文例大事典

仏教手紙

B5判・約700頁
上製貼函入・背継表紙
28800円

手紙・挨拶の画期的な便利大事典!

*小社の書籍は注文制です。書店にご注文下さい。 国書刊行会 〒170 東京都豊島区巢鴨3-5-18 電話03(917)8287

春の古書大即売会

5月2日金～6日火 京都市勧業館2F 特設会場
午前10時～午後5時(最終日3時まで) 主催 京都古書研究会



安田理深選集
全15巻

人間実存の究極的解決を、全身全霊をかけて探求した在野の一求道者の生涯の獅子吼の集成

- 1巻 自証の理論他 5800円
- 2巻～6巻 唯識三十頌聴記 2巻 5000円
- 7・8巻 十地経論聴記 7巻 5000円
- 9巻～14巻 願生偈聴記 9・10巻 各5000円
- 15巻上・下 教行信証聴記 各5000円

中観莊嚴論の研究

— シャンタラクシタの思想 —

一郷正道著 18,000円

インド後期中観派の巨匠シャンタラクシタの主著に対する本格的文献研究。六編の論文及び翻訳。別巻にはカマラシーラの細疏まで含めたチベット文校訂テキスト、英文解説を収録。

文栄堂書店

(〒604) 京都市中京区寺町通三条上る
TEL (075) 231-4712 番

新刊案内

万国博覧会の研究

(内容見本呈)

吉田光邦編
三年にわたる万国博覧会研究会の成果をもとに、十九世紀から始まった内外博覧会に関する十五篇の論文を収録。
●A5判・二六八頁／定価四、八〇〇円

補訂 日本建築細部変遷小図録

天沼俊一著
本書は社寺建築細部の変遷を図録スタイルによって解説したもので、昭和十九年に刊行された。今回の復刻にあたって、社寺の名称を再整理し、併せて図版索引と項目索引を付した。
●A5判・五七二頁／定価九、八〇〇円

慶長以前の石燈籠

天沼俊一著
定価五、八〇〇円

徳川黎明會叢書

全十三冊 徳川黎明會編

第一回配本 私家集・歌合 定価二、〇〇〇円
第二回配本 蓬左・霜のふり葉・八雲 定価一、三〇〇円

〔続刊〕(物語篇)源氏物語絵巻・白描源氏物語絵詞・伊勢物語／絵巻集成
(和歌篇)古今和歌集／後拾遺和歌集・八代抄／桐火桶・詠歌一帙・
綺語抄／和歌題林抄・二十首和歌・萱草(古筆手鑑篇)玉海・尾陽
／蕨叢・桃江・文庫／鳳凰台・水葦集古帖／古筆集成

新勅撰和歌集古注釈とその研究

全二冊

大取一馬編著
●A5判・総頁一三四二／揃定価四五、〇〇〇円
〔内容目次〕新勅撰和歌集注釈史論／新勅撰和歌集論／新勅撰和歌集注釈
書翻刻／新勅撰和歌集注釈書解題

紙のふるさとを 行く

歴史の中の和紙のはなし

町田誠之著
飛鳥・奈良・京都の歴史の名所六十余箇所を訪ね、
和紙をめぐる文化的歴史の足跡を平易に明かした
案内書。関係写真多数収録
●A5判・二〇四頁／定価二、八〇〇円

和紙文化

町田誠之著
定価二、三〇〇円
手すきの紙郷
久米康生編
定価二、三〇〇円

思文閣出版

京都本社 〒606 京都市左京区田中関田町2-7 (075) 751-1781
東京支社 〒101 東京都千代田区三崎町2-20 (03) 263-6348

好評発売中

鈴鹿三七編並に解説

勅板集影

(補訂版)

【特色】

文禄・慶長・元和年刊に梓刻された勅版十一種を書影、個々の詳細な解説(一部補訂)を施した唯一の勅版集大成。典籍愛好家のもとより日本文化史研究者必見の書。

■体裁 B4判・原装復元・和装袋綴・映入
■定価 二四、〇〇〇円

【主要内容】

後陽成天皇勅版 勸學文／錦繡段／日本書紀神代／古文孝經／大學／中庸／論語／孟子／職原抄／長恨歌／琵琶行／後水尾天皇勅版 皇宋事實類苑

刊

近

訓読 日本三代実録

今泉忠義訳

訓読 続日本紀

●A5判・上製／定価各九、八〇〇円

▼神道に関する「百科事典」

縮刷版 神道大辞典

宮地直一・佐伯有義 監修
●A5判・上製／定価一四、〇〇〇円

▼近代文芸雑誌

槐・現代文学

自創刊号(昭和13年6月)至七卷一号(昭和18年12月)

●A5判・上製／定価二一、〇〇〇円

▼重版出来

井上通泰著

播磨國風土記新考

●A5判・上製／定価七、六〇〇円
*詳細は小社営業部まで
ご照会下さい。カタログ送呈



臨川書店

本社 〒606 京都市左京区今出川通川端東入50M
支社 〒101 東京都千代田区神田駿河台2-11-16

TEL (075) 721-7111
TEL (03) 293-5021